本山町埋蔵文化財調査報告書第９集

銀杏ノ木遺跡

（高知県長岡郡本山町）

１９９９．３

本山町教育委員会

銀杏ノ木遺跡
一九九九・三
高知県長岡郡本山町教育委員会

銀杏ノ木遺跡

本山町埋蔵文化財調査報告書第9集

1999.3

本山町教育委員会

巻頭カラー

ST１遺物出土状況（西から）

ST１完掘状況（南から）

序

本山町は，四国のほぼ中心部，高知県の最北部に位置し，近隣の嶺北地域ではもっとも遺跡の集中する地区であります。町の殆どは，山林で占められていますが，吉野川上流域では唯一河岸段丘の発達しているところであり人々に生活の場を提供しています。

本町は，「花のまち」であると同時に「史跡のまち」でもあります。特に西日本屈指の縄文遺跡として脚光を浴びた「松ノ木遺跡」や，西日本ではおそらく初めてであろうと言われる「長徳寺跡遺跡」の多宝・塔など，この付近に数珠状に連なる遺跡の存在がそのことを雄弁に物語っています。

今回の発掘調査で西見当Ⅰ式の弥生土器が発見されたことにより，この地域は瀬戸内と高知平野を結ぶルートとして，はるか昔から交通の要衝として重要な役割を果たしてきたことが判明しました。

本山町は自然という宝物とともに，文化や歴史にまつわる素晴らしい見所を持つ町です。そして数多く分布している遺跡には，歴史を築いてきた先人たちの営みがしっかりと刻み込まれています。

これら残された貴重な文化遺産を保存し，後世に残していくことが私たちの使命であると考えており，これからも現代を知り，未来を展望していく上での羅針盤として大切にしていきたいと思っております。

終わりになりましたが，発掘調査・報告書作成にあたって全面的なご協力を頂いた出原恵三氏をはじめ，（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター，土佐町教育委員会，発掘作業に従事して頂いた皆様など関係者各位に対しまして，ここに厚くお礼申し上げます。

平成11年３月

本山町教育委員会

教育長　和　田　聖　寛

例　言

1　本書は，本山町教育委員会が平成８・９年度に実施した埋立て予定地に伴う銀杏ノ木遺跡の発掘調査報告書である。

2　銀杏ノ木遺跡は，高知県長岡郡本山町本山字東畑に所在する。

3　発掘調査は，平成９年２月に（財）高知県埋蔵文化財センターの協力を得て試掘調査を実施，第１次調査を平成９年３月３日～平成９年３月27日（平成８年度）まで，第２次調査を平成９年５月６日～平成９年７月25日（平成９年度）まで実施した。第１次調査は約1400㎡を第２次調査は約700㎡を対象として行った。

　また，発掘調査及び遺物整理・図面作成作業，報告書作成にあたっては出原恵三氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター　調査第３班長）から多大な協力を得ることができた。記して感謝の意を表したい。

4　調査体制は以下の通りである。

調査員	筒井敬二（土佐町教育委員会主幹）
調査員及び事務担当	渡邊徳仁（本山町教育委員会主事）

5　本書の編集は，筒井・渡邊が行い，第Ⅰ～Ⅳ章は筒井と渡邊が，第Ⅴ章は１と３を筒井が，２を出原氏が執筆した。

6　遺物整理・図面作成等の作業においては，下記の方々の協力を得ることができた。心よりお礼申し上げたい。

　　埋蔵文化財センター　山中美代子　田村美鈴　大原喜子　松木富子　浜田雅代

7　発掘現場作業員は下記の方々である。暑さの中，献身的に発掘作業に従事してくれたことに対して心より感謝の意を表したい。

青木房　石川真一郎　石川春子　伊藤佐代子　今西和秀　川村幸　川村貞子　曽我部ツヤ子
高橋石男　田上佐恵子　樋口佳伯　畠山みさ子　内藤照光　内藤住江　村山志賀乃　山中査智子
竹田瑞男　坂本信彦　山原宇顕　古田米子　今西春子　今西小枝子　中野内愛子　石原博文
共運工業有限会社－石川紀夫　秋山純一

8　当遺跡出土資料は本山町教育委員会が保管し，遺跡の略号は96－49MG と97－11MI である。

9　最後に発掘調査の実施にあたって，土佐町教育委員会・株式会社嶺生開発・本山町役場建設課・本山保育所の皆様に埋蔵文化財に対する理解と協力をいただき当調査を進めることができたことに心から感謝したい。

本 文 目 次

第Ⅰ章　調査に至る経過 …… 1

第Ⅱ章　遺跡周辺の歴史的環境 …… 2

第Ⅲ章　調査方法 …… 4

第Ⅳ章　調査の成果 …… 5
1．基本層準 …… 5
2．弥生時代の遺構と遺物 …… 9
（1）竪穴住居 …… 9
ST 1 …… 9
ST 2 …… 10
ST 3 …… 15
（2）土　坑 …… 16
（3）ピット …… 19
（4）包含層Ⅸ層上面からの集中出土遺物 …… 20
3．中世の遺構と遺物 …… 21
（1）土　坑 …… 22
（2）ピット …… 25
4．包含層出土の遺物 …… 26
（1）縄文時代 …… 26
（2）弥生時代 …… 26
（3）中　世 …… 26

第Ⅴ章　まとめ …… 31

お　わ　り　に …… 35

図 版 目 次

Fig. 1　銀杏ノ木遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 3
Fig. 2　調査区位置図 …… 4
Fig. 3　調査区Ｃ－Ｄセクション基本層準 …… 5
Fig. 4　調査区Ａ－Ｂセクション基本層準 …… 6
Fig. 5　検出遺構全体図 …… 7～8
Fig. 6　ST 1平面及びセクション図 …… 10
Fig. 7　ST 1出土遺物実測図 …… 11
Fig. 8　ST 1出土遺物実測図 …… 12
Fig. 9　ST 1出土遺物実測図 …… 13
Fig.10　ST 2平面・セクション図及び出土遺物実測図 …… 14
Fig.11　ST 3平面・セクション図及び出土遺物実測図 …… 15
Fig.12　SK 2・4平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 …… 17
Fig.13　SK 5・7平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 …… 18
Fig.14　SK 17・24，P56平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 …… 19
Fig.15　Ⅸ層上面からの集中出土遺物実測図 …… 20
Fig.16　SK 10・13・21平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 …… 21
Fig.17　SK 1・3・6・8・9・11・12・14・15平面及びエレベーション図 …… 23
Fig.18　SK 16・18・19・20・22・23平面及びエレベーション図 …… 24
Fig.19　P 11・38・52平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 …… 25
Fig.20　包含層出土遺物実測図 …… 27
Fig.21　包含層出土遺物実測図 …… 28
Fig.22　包含層出土遺物実測図 …… 29
Fig.23　包含層出土遺物実測図 …… 30
Fig.24　西南四国における縄文時代早～前期のトロトロ石器と出土遺跡分布図 …… 31

表 目 次

Tab. 1　ST 1ピット計測表 …… 10
Tab. 2　ST 2ピット計測表 …… 14
Tab. 3　遺物皆無の土坑計測表 …… 22

写真図版目次

ＰＬ１　調査前風景・試掘調査トレンチ設定状況 …… 49
ＰＬ２　調査区南壁Ａ－Ｂセクション …… 50
ＰＬ３　調査区東壁Ｃ－Ｄセクション …… 51
ＰＬ４　ST １検出状況（西から）・ST １発掘作業風景 …… 52
ＰＬ５　ST １遺物出土状況（北から）・ST １完掘状況（南から） …… 53
ＰＬ６　ST １遺物出土状況（11・13・14・28・39・41） …… 54
ＰＬ７　ST １と SK ４の位置関係・SK ４遺物出土状況 …… 55
ＰＬ８　ST ２セクション（西から）・ST ２完掘状況（南西から） …… 56
ＰＬ９　ST ３完掘状況（南西から）・同（北東から） …… 57
ＰＬ10　SK １，３，５完掘状況・SK ６・SK ７遺物出土状況・SK 13セクション …… 58
ＰＬ11　SK 15，16，18，20，22，24完掘状況 …… 59
ＰＬ12　包含層Ⅸ層上面集中出土遺物出土状況・同（84）・同（90）・同（86・88） …… 60
ＰＬ13　調査区全景（北東から）・同（南西から） …… 61
ＰＬ14　ST １（４・７・11・13・14・15）出土の遺物 …… 62
ＰＬ15　ST １（16・19・20・26・27・34）出土の遺物 …… 63
ＰＬ16　ST １（35・36・39・40・41・43）出土の遺物 …… 64
ＰＬ17　ST ２（51・52）・SK ２（60）・SK ４（61・64）・SK ７（75）出土の遺物 …… 65
ＰＬ18　ST １（２・３・８・９・10・17・23・28）・SK ７（70・73）・
包含層Ⅸ層上面（90）・包含層（100・137）出土の遺物 …… 66
ＰＬ19　包含層Ⅸ層上面（84・85・87・88・91）・包含層（104）出土の遺物 …… 67
ＰＬ20　Ｐ38（99）・包含層（106・107・110・111・122・156）出土の遺物 …… 68
ＰＬ21　包含層出土のトロトロ石器（136）・包含層出土の西見当Ｉ式土器（154） …… 69
ＰＬ22　石器（石包丁）・同裏面 …… 70
ＰＬ23　包含層出土の遺物（青磁・白磁・染付け）・同裏面 …… 71

第Ⅰ章　調査に至る経過

銀杏ノ木遺跡は，本山町中心部より西方約700ｍ，本山保育所東側の水田に位置する。近隣の遺跡としては，南方には昭和56年３月に同和対策事業等による土地造成に伴う発掘調査の際，発見された銀杏ノ木遺跡が（のちに今次調査と同時代のものと確認），またそのすぐ北側には埋蔵文化財包蔵地として知られる高畑遺跡がある。

今回，土木工事によって生じる残土処理場として埋立てが予定されていたこと，将来的には宅地造成の計画があることなどが判明し，埋蔵文化財の包蔵状況を確認するために高知県教育委員会文化財保護室・（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター・工事担当課等関係の協力を得て平成９年２月４日から６日の３日間，埋蔵文化財センター調査第三班長の出原恵三氏の調査指導のもと試掘調査を実施した。その結果，当遺跡の旧地形は西（保育所）から東に向かって傾斜していることが分かった。低位部からは縄文時代のピットが１個，高位部からは弥生後期の竪穴住居１棟が確認された。また，各トレンチからは，縄文・弥生・中世土師器，青磁などが100点ほど出土した。このことから当地点は弥生時代後期を中心とした，縄文～中世の集落遺跡であることが明らかになった。工事が予定通り実施されると遺跡は大きな影響を受けることとなる。そこで，本町教育委員会，工事担当課等で，協議した結果，記録保存を目的とし本格的な発掘調査を行うこととなった。

また，発掘調査体制として土佐町教育委員会に全面的な協力を依頼し，県内では異例の隣接町による共同発掘調査を実施した。

第Ⅱ章　遺跡周辺の歴史的環境

銀杏ノ木遺跡のある長岡郡本山町は，四国山地のほぼ中心部，高知県の最北部に位置し，近隣５カ町村と共に嶺北地方と呼ばれている。町のほとんどは山林で占められているが，町を南北に２分して東流する吉野川流域にあって河岸段丘が発達しているのが特徴である。この流域には松ノ木遺跡，永田遺跡，堀ノ尻遺跡をはじめ多数の遺跡が立地しており，吉野川上流域の遺跡密集地帯を形成しているといっても過言ではない。また本山町は，瀬戸内海と太平洋側を結ぶルートの中継点でもあり，東西・南北からの情報のクロスする地点でもある。このような地理的環境が本山町の歴史と文化の場を提供してきたのであり，銀杏ノ木遺跡の内容を規定する大きな要因の１つということができる。

本山町の歴史は，長徳寺遺跡の調査によって，縄文時代早期にまで遡ることが確認されており，以後縄文時代を通して連綿と人々の生活の跡をたどることができる。長徳寺址からは，遺構は検出されていないものの，縄文早期の蔦島式土器と，高知県では初出土の大形楕円押型文土器である高山寺式土器が出土している。また，２個の石錘も出土しており，土佐の網漁法が縄文早期まで遡ることが明らかになった[(1)]。特に後期の松ノ木遺跡は，成立期の縁帯文土器として著名となった松ノ木式土器のタイプサイトであり，松ノ木式土器と命名された縄文時代後期の土器は，全国的にも著名な土器型式となり，縄文遺跡の希薄な高知県中・東部にあたっては充実した内容をもつ遺跡として重要な位置を占めている[(2)]。

弥生時代は，中期末から遺跡が分布し始め，後期末～古墳時代初頭に至って飛躍的な増加が見られる。中でも嶺北高校校庭遺跡から凹線文の壺・高坏と大形蛤刃石斧が出土しており，西方の昭和56年に調査された銀杏ノ木遺跡からは，竪穴式住居址状遺構，貯蔵穴などの遺構が検出されると共に，ヒビノキⅡ式土器併行の銀杏ノ木式土器やこれに伴って打製石包丁などが出土している[(3)]。また堀ノ尻遺跡は，弥生時代末から平安時代にかけて営まれた遺跡であり，８世紀末から９世紀前半に属する須恵器が主体を占めている[(4)]。また当町及び隣接する土佐町からは近畿式銅鐸　１個・中広形銅矛　４本・広形銅矛　１本が確認されており，高知平野と共に銅鐸・銅矛の錯綜地域を形成している。

古墳時代以降・奈良時代までは見るべき遺構はほとんど存在せず，当地域の歴史は一旦ここで途切れる。しかし，延暦16年（797）に至り吾橋駅が設けられたという記載があり（『日本後記』）この駅を本山町周辺に比定することも可能でこの時期から再び遺跡が分布するようになる。

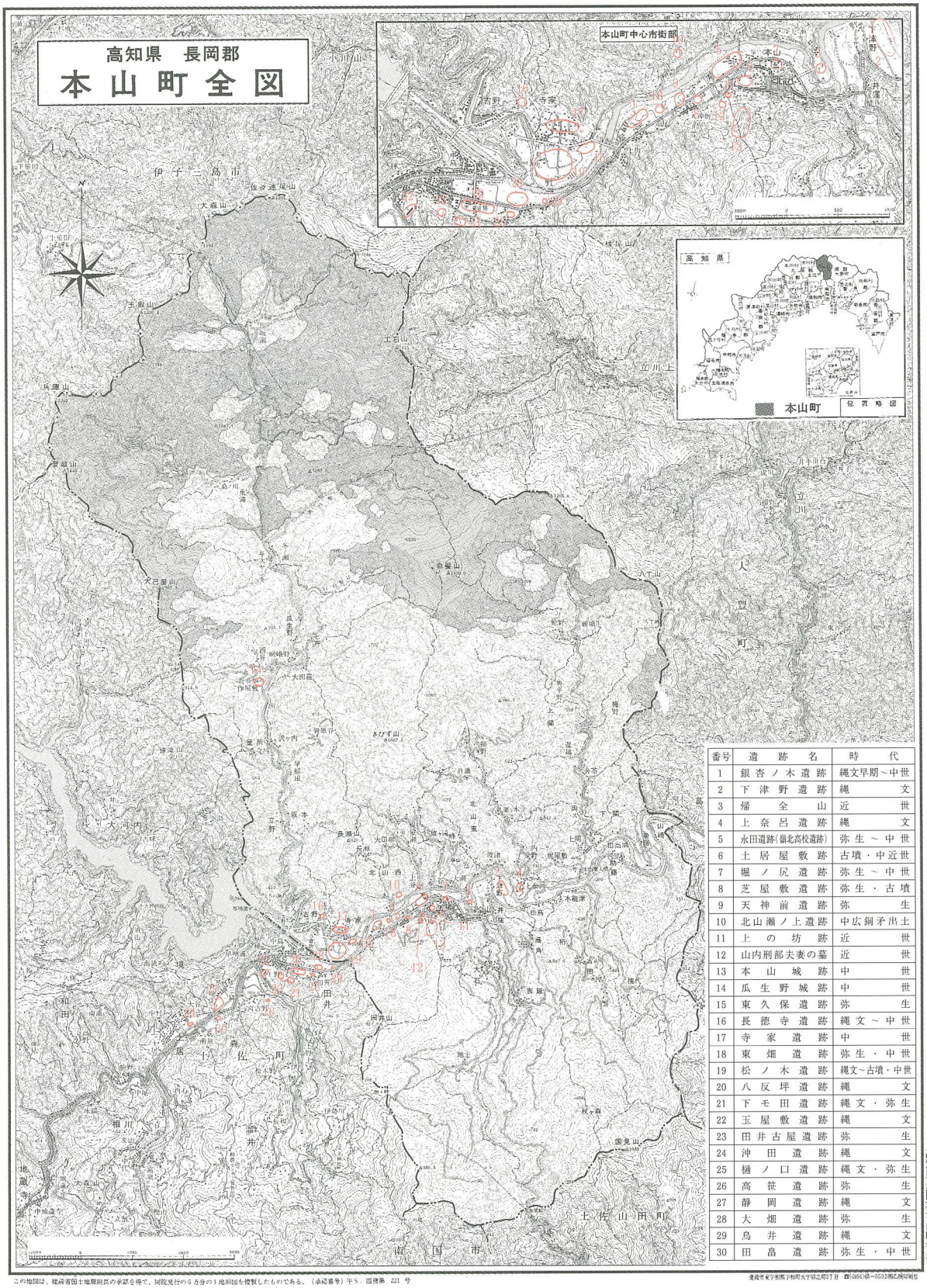
註

（１）岡本健児他「長徳寺址発掘調査報告書」　高知県長岡郡本山町教育委員会　1977年

（２）出原恵三・前田光雄「松ノ木遺跡Ⅰ」　高知県長岡郡本山町教育委員会　1992年

（３）岡本健児「銀杏ノ木遺跡の発掘」　高知県長岡郡本山町教育委員会　1984年

（４）出原恵三「堀ノ尻遺跡」　高知県長岡郡本山町教育委員会　1993年



番号	遺跡名	時代
1	銀杏ノ木遺跡	縄文早期～中世
2	下津野遺跡	縄文
3	帰全山	近世
4	上奈呂遺跡	縄文
5	永田遺跡(嶺北高校遺跡)	弥生～中世
6	土居屋敷跡	古墳・中近世
7	堀ノ尻遺跡	弥生～中世
8	芝屋敷遺跡	弥生・古墳
9	天神前遺跡	弥生
10	北山瀬ノ上遺跡	中広銅矛出土
11	上の坊跡	近世
12	山内刑部夫妻の墓	近世
13	本山城跡	中世
14	瓜生野城跡	中世
15	東久保遺跡	弥生
16	長徳寺遺跡	縄文～中世
17	寺家遺跡	中世
18	東畑遺跡	弥生・中世
19	松ノ木遺跡	縄文～古墳・中世
20	八反坪遺跡	縄文
21	下モ田遺跡	縄文・弥生
22	玉屋敷遺跡	縄文
23	田井古屋遺跡	弥生
24	沖田遺跡	縄文
25	樋ノ口遺跡	縄文・弥生
26	高笹遺跡	弥生
27	静岡遺跡	縄文
28	大畑遺跡	弥生
29	鳥井遺跡	縄文
30	田畠遺跡	弥生・中世

高知県長岡郡本山町役場

Fig. 1　銀杏ノ木遺跡の位置と周辺の遺跡

第Ⅲ章　調査方法

平成８・９年度にまたがる発掘調査になるとの見込みが強かったため，調査区を第１次調査（平成８年度３月３日～平成８年度３月27日）と第２次調査（平成９年度５月６日～平成９年度７月25日）に二分し，傾斜の低い東側から調査にかかることとした。調査にあたっては，遺物包含層直上まで重機掘削を行い，包含層掘削・遺構検出を行った。遺構発掘は手作業で行った。遺物の取り上げ，遺構実測は磁北にあわせた任意座標を組み，４ｍ毎に東西方向に西から１・２・３……，南北方向に北からＡ・Ｂ・Ｃ……との方眼を組み，それを基準に行った。遺構実測，セクションは20分の１縮尺を基本にして実施し，必要に応じて縮尺をかえた。

第１次調査において分布密度は比較的希薄ではあるが，縄文～中世の遺構と遺物が検出された。従って，残り700㎡については，長期的な調査が必要と判断し第２次調査を実施した。

Fig. 2　調査区位置図

第Ⅳ章　調査の成果

1．基本層準（Fig.3・4）

基本層準は，調査区南壁のA－Bセクションと東壁のC－Dセクションで観察した。調査地の地山面の標高は，西が高く，東に向けてなだらかに傾斜している。このため，堆積土層は，西で薄く，東に行くにしたがって厚くなる。また，南壁A－Bセクションでみると，12～28mのあたりが落ち込み状となっている。XVI層からXIX層は，その堆積土である。

調査面積が広く，一様にはならないが，基本的な層準は以下の通りである。なお，遺物包含層については，中近世の層に弥生時代の遺物が含まれるなど，純粋な層の形成は認められない。

XXI層：黄褐色シルト質土層。地山である。弥生の遺構検出面である。また，西の部分では，中近世に属するとみられるピットも検出している。

XX層：茶黄色シルト質土層。層厚は24～42cmを測る。調査区の東でみられる。無遺物層である。

XIX層：淡灰黄色砂質土。層厚は3～27cmを測る。落ち込み部の堆積土であり，無遺物層である。

XVIII層：灰黄色砂質土層。層厚は5～18cmを測る。落ち込み部の堆積土であり，無遺物層である。

XVII層：淡灰色粘質土層。層厚は3～18cmを測る。落ち込み部の堆積土であり，無遺物層である。

XVI層：黒茶灰色粘質土層。層厚は3～12cmを測る。落ち込み部の堆積土であり，無遺物層である。

XV層：赤褐色土層。層厚は3～18cmを測る。無遺物層である。

XIV層：黄茶色土層。層厚は3～6cmを測り，1～5mm大の小礫を含む。無遺物層である。

XIII層：濃茶灰色粘質土層。層厚は3～24cmを測る。無遺物層である。

XII層：淡茶灰色粘質土層。層厚は3～18cmを測る。無遺物層である。

XI層：濃灰褐色土層。層厚は3～9cmを測る。無遺物層である。

X層：灰色粘質土層。層厚は6～21cmを測る。無遺物層である。

IX層：灰褐色粘質土層。層厚は6～36cmを測る。弥生時代の遺物包含層である。

VIII層：灰黄色粘質土層。層厚は6～23cmを測る。弥生時代の遺物包含層である。

VII層：黄褐色土層。層厚は3～6cmを測り，鉄分の沈着が認められる。中世の遺構検出面である。

VI層：黄茶色粘質土層。層厚は6～15cmを測る。中世の遺構検出面である。また，土層中に弥生時代の遺物の混入もみられる。

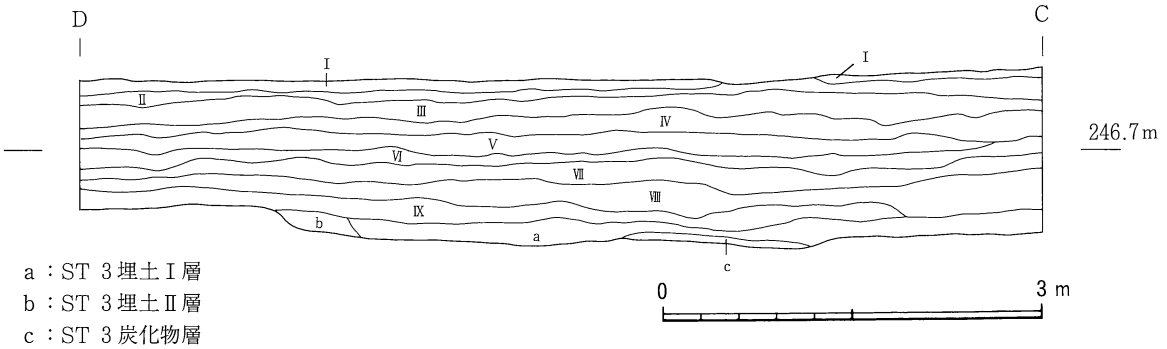
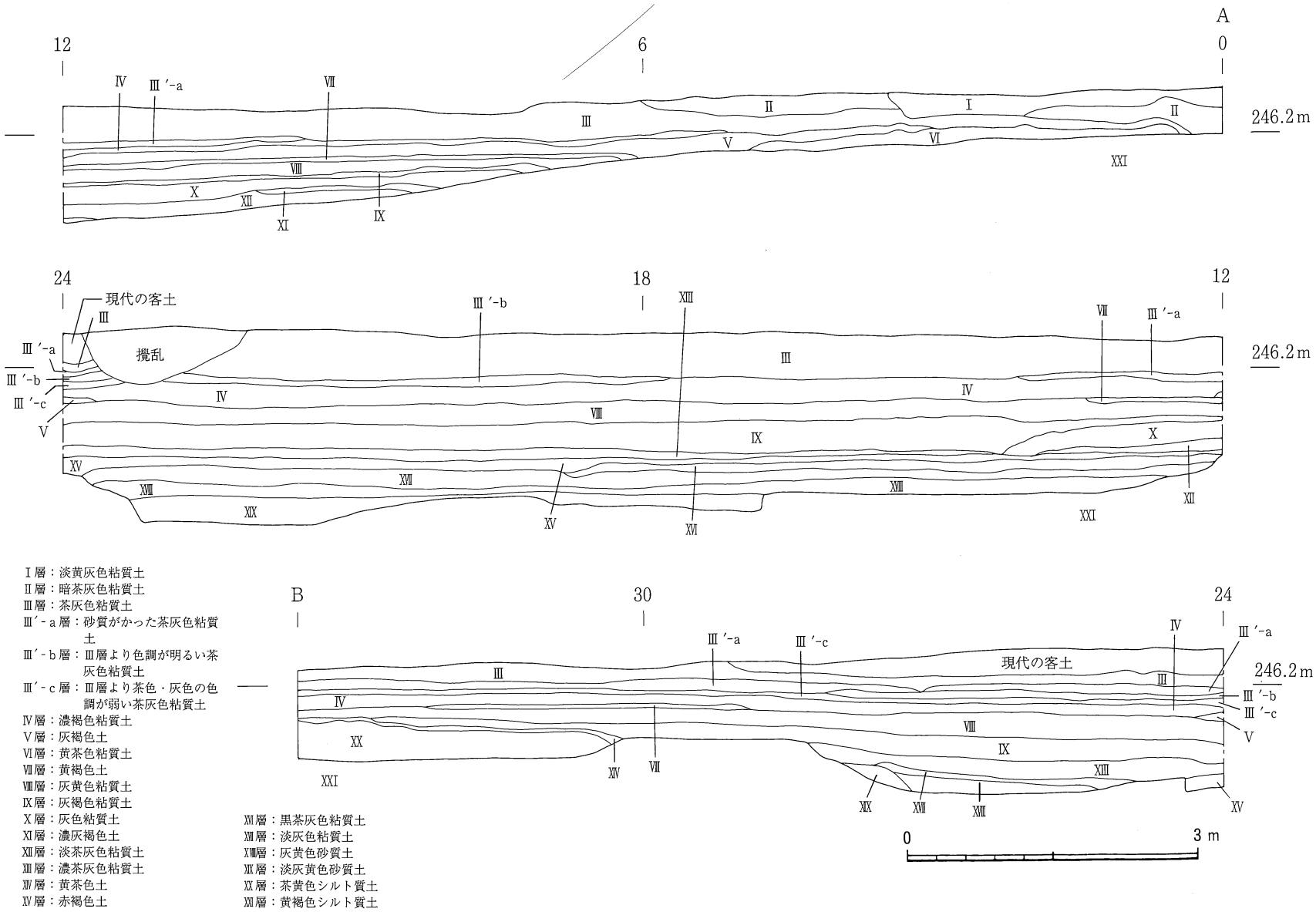


Fig.3　調査区C－Dセクション基本層準



Ⅰ層：淡黄灰色粘質土
Ⅱ層：暗茶灰色粘質土
Ⅲ層：茶灰色粘質土
Ⅲ′-a層：砂質がかった茶灰色粘質土
Ⅲ′-b層：Ⅲ層より色調が明るい茶灰色粘質土
Ⅲ′-c層：Ⅲ層より茶色・灰色の色調が弱い茶灰色粘質土
Ⅳ層：濃褐色粘質土
Ⅴ層：灰褐色土
Ⅵ層：黄茶色粘質土
Ⅶ層：黄褐色土
Ⅷ層：灰黄色粘質土
Ⅸ層：灰褐色粘質土
Ⅹ層：灰色粘質土
Ⅺ層：濃灰褐色土
Ⅻ層：淡茶灰色粘質土
XIII層：濃茶灰色粘質土
XIV層：黄茶色土
XV層：赤褐色土
XVI層：黒茶灰色粘質土
XVII層：淡灰色粘質土
XVIII層：灰黄色砂質土
XIX層：淡灰黄色砂質土
XX層：茶黄色シルト質土
XXI層：黄褐色シルト質土

Fig.4　調査区A－Bセクション基本層準

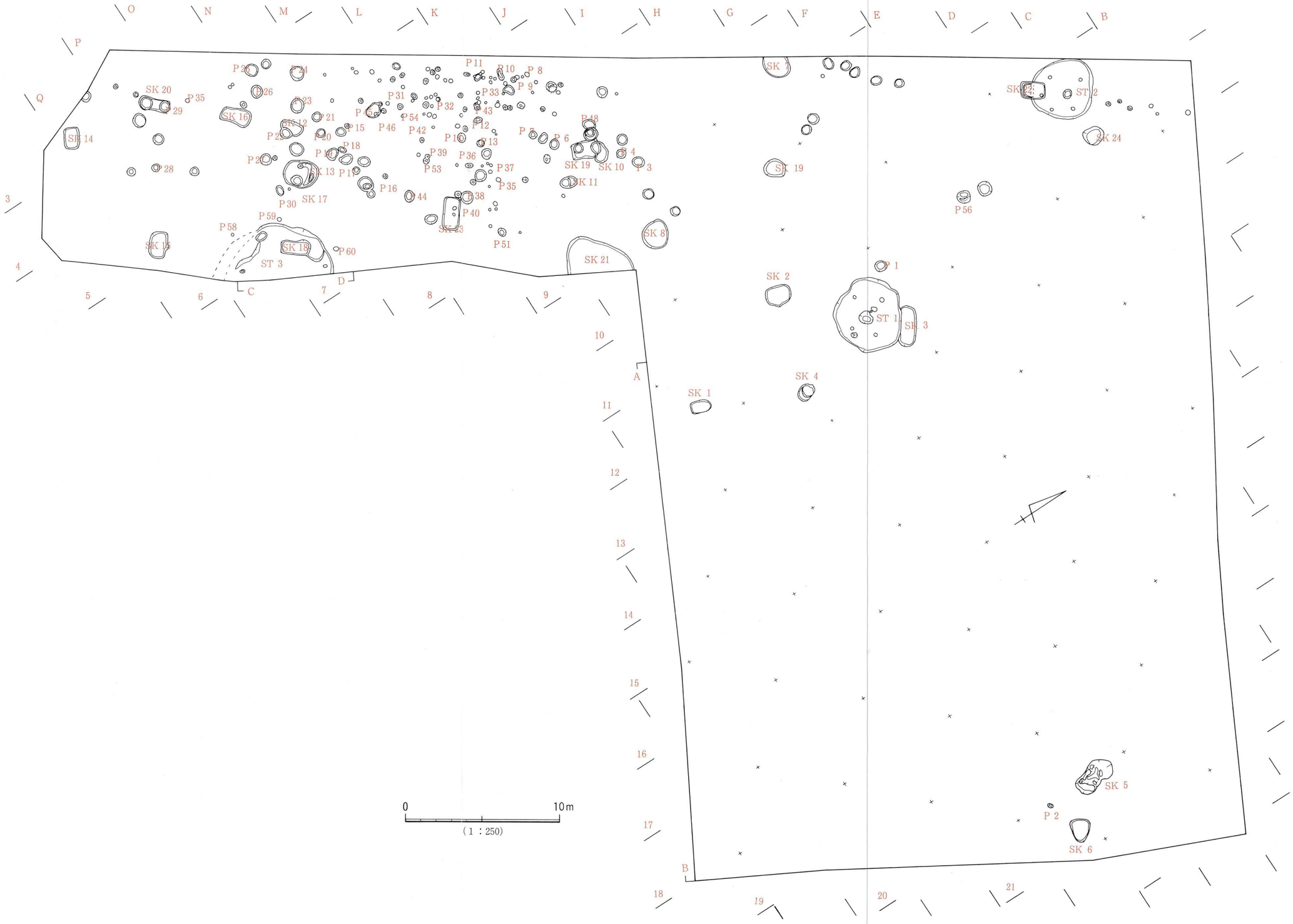


Fig. 5　検出遺構全体図

Ⅴ層：灰褐色土層。層厚は６～18cmを測る。中世の遺物包含層である。

Ⅳ層：濃褐色粘質土層。層厚は３～27cmを測る。中世の遺物包含層で，弥生時代の遺物の混入もみられる。

Ⅲ′－ｃ層：Ⅲ層より茶色・灰色の色調が弱い茶灰色粘質土層。層厚は３～６cmを測る。無遺物層である。

Ⅲ′－ｂ層：Ⅲ層より色調が明るい茶灰色粘質土層。層厚は３～９cmを測る。無遺物層である。

Ⅲ′－ａ層：砂質がかった茶灰色粘質土層。層厚は３～11cmを測る。無遺物層である。

Ⅲ層：茶灰色粘質土層。層厚は６～50cmを測る。中近世の遺物包含層で，若干弥生時代の遺物が混入する。

Ⅱ層：暗茶灰色粘質土層。層厚は９～30cmを測る。無遺物層である。

Ⅰ層：淡黄灰色粘質土層。層厚は６～21cmを測る。調査段階ではすでに除去されていた現代の水田耕作土の直下に位置する土層であり，無遺物層である。

２．弥生時代の遺構と遺物

（１）竪穴住居

ST １（Fig.６・７・８・９）

調査区の中央やや西寄りで検出した竪穴住居である。平面形は隅丸五角形様を呈し，一辺が，短いもので2.2ｍ，長いもので３ｍほどを測る。検出面から床面までの深さは23～45cmを測る。北東壁はSK ３に切られている。埋土は，Ⅰ：濃灰茶色粘質土，Ⅱ：黄灰茶色砂質土，Ⅲ：茶褐色粘質土，Ⅲ′：黄色粘質土混じりの茶褐色粘質土，Ⅳ：濃茶褐色粘質土，Ⅴ：淡黄色粘質土，Ⅴ′淡黄色粘質土（Ⅴ層より明るい）となるが，Ⅰ層とⅡ層が主要層準をなす。床面はほぼ平坦で，ベッド状遺構，壁溝ともに認められない。中央ピットはほぼ中央に存在し，楕円形のプランを有するが，北西部の肩が崩れているため，床面からの掘り込み部のプランはいびつなハート形となっている。長軸90cm，短軸60cm，深さ８cmを測る。中央ピット北側に存在する緑色片岩は腰掛けの類とみられる。主柱穴はＰ１～Ｐ４の四本柱を想定できる。柱間距離は，Ｐ１－Ｐ２が２ｍ，Ｐ２－Ｐ３が1.8ｍ，Ｐ３－Ｐ４が2.3ｍ，Ｐ４－Ｐ１が1.6ｍである。

出土遺物は，土器では，甕，壺，鉢，高坏があり，石器では，打製石包丁，石錘がある。出土遺物中で図示できるものは１～50である。１～13・15～17・19～24・26～33は甕である。このうち底部が出土している14点のうち，上げ底の底部を成すものは，12・13・21・24・26・29～33の10点である。特に12・21・26・30～32は，上げ底の縁部を指頭でつまみ出して成形している。14・18・25・34は壺である。14の外面は，ハケに加えて，ヘラ磨きが施されている。35～39は鉢である。36と39の底部は，上げ底を成す。40～43は高坏である。これらのうち，床面から出土した土器（Fig.５にドットで図示）は，甕（11・13・27・28）４点，壺（14）１点，鉢（38・39）２点，高坏（41・43）２点の計９点である。また，住居内ピットＰ１より，弥生土器細片が50点ほど出土している。床面及び埋土出土土器の器種組成を口縁部片でみると，その点数は，甕41（72％），壺８（14％），鉢６（11％），高坏２（３％）であり，甕が圧倒的に多い。底部の形態に特徴がみられ，平底を成すもの

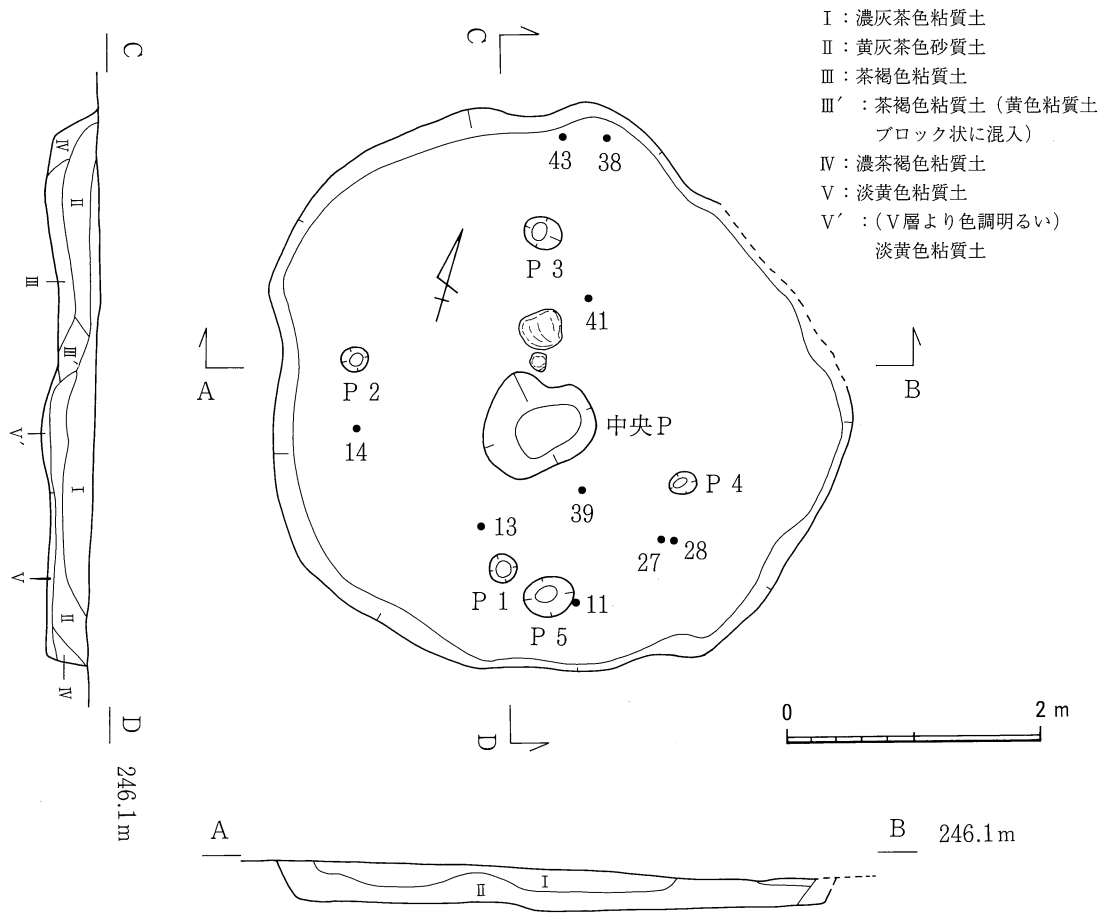


Fig. 6　ST 1平面及びセクション図

が7点に対し，上げ底を成すものが32点を数え，大半を占める。44～49は打製石包丁で，結晶片岩製である。50は石錘である。緑色片岩製で，長軸方向の両端を打ち欠いた凹みが認められる。ST 1は，弥生時代後期中葉に属する。

Tab. 1　ST 1ピット計測表

ピットNO	平面規模(cm)	深さ(cm)	平面形態
P 1	22×20	27	円形
P 2	21×19	14	円形
P 3	30×24	38	楕円形
P 4	22×16	26	不整楕円形
P 5	40×30	8	不整楕円形

ST 2（Fig.10）

調査区の北西で検出した竪穴住居である。径3.8m前後を測り，不整円形の平面形を有する。検出面から床面までの深さは18～27cmを測る。南西部はSK 22に切られている。埋土はⅠ～Ⅷ層からなっている。Ⅰ：灰褐色粘質土，Ⅱ：濃灰褐色粘質土，Ⅲ：淡褐色粘質土，Ⅳ：暗灰褐色粘質土，Ⅴ：褐色粘質土，Ⅵ：褐色粘質土（炭化物を多く含む），Ⅶ：黄褐色シルト質土（地山2次堆積），Ⅷ：暗褐色粘質土（中央ピットの炭を含む）となる。このうち，Ⅰ層とⅢ層が主要層準をなす。床面は平坦で，ベッド状遺構や壁溝は認められない。中央ピットは中央やや北東寄りに存在し，隅丸方形状の平面形を持つ。長軸60cm，短軸50cm，深さ10cmを測る。主柱穴はP 1～P 4の四本柱が想定される。柱間距離は，P 1－P 2，P 2－P 3がそれぞれ1.9m，P 3－P 4が1.3m，P 4－P

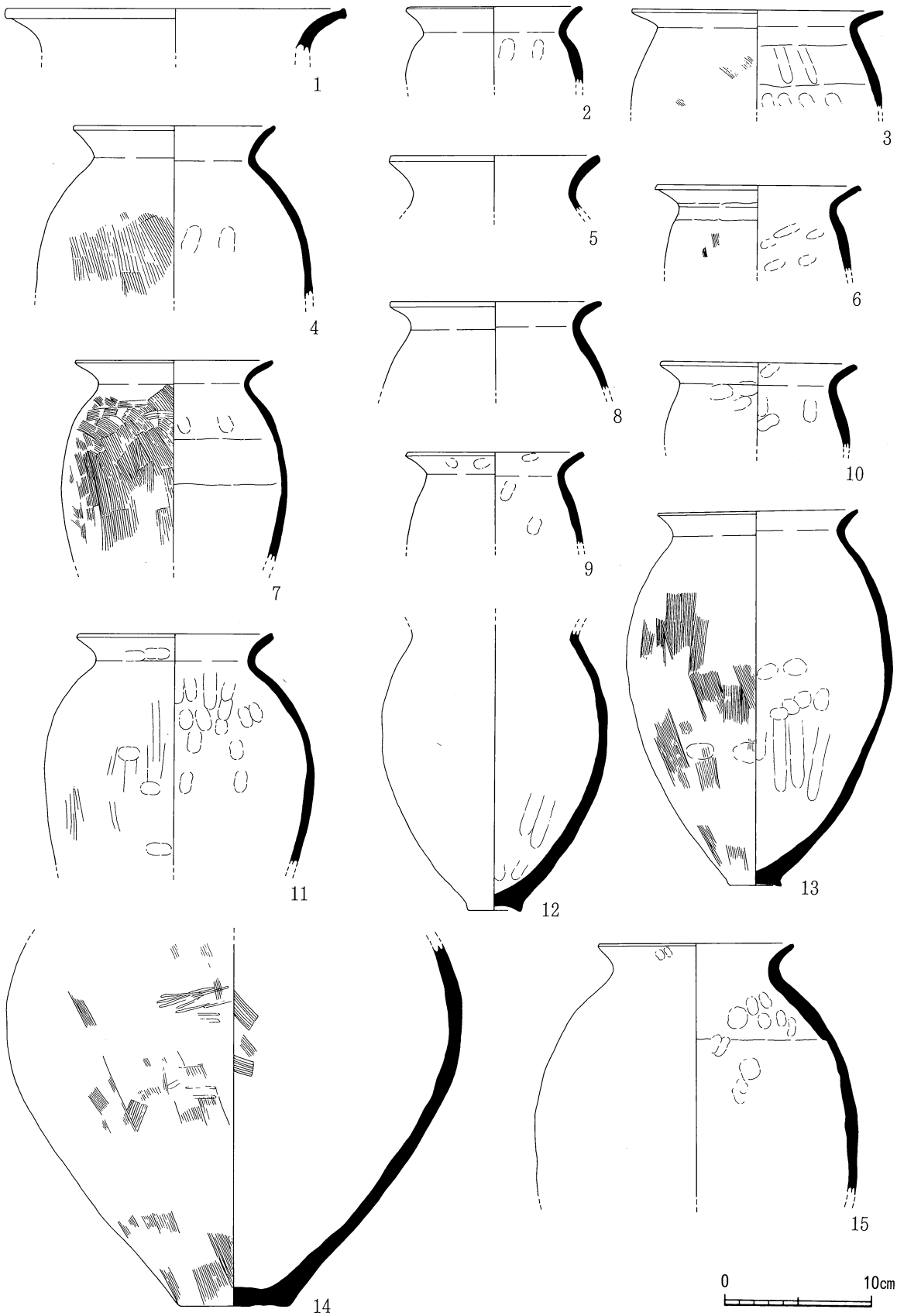


Fig. 7　ST 1出土遺物実測図

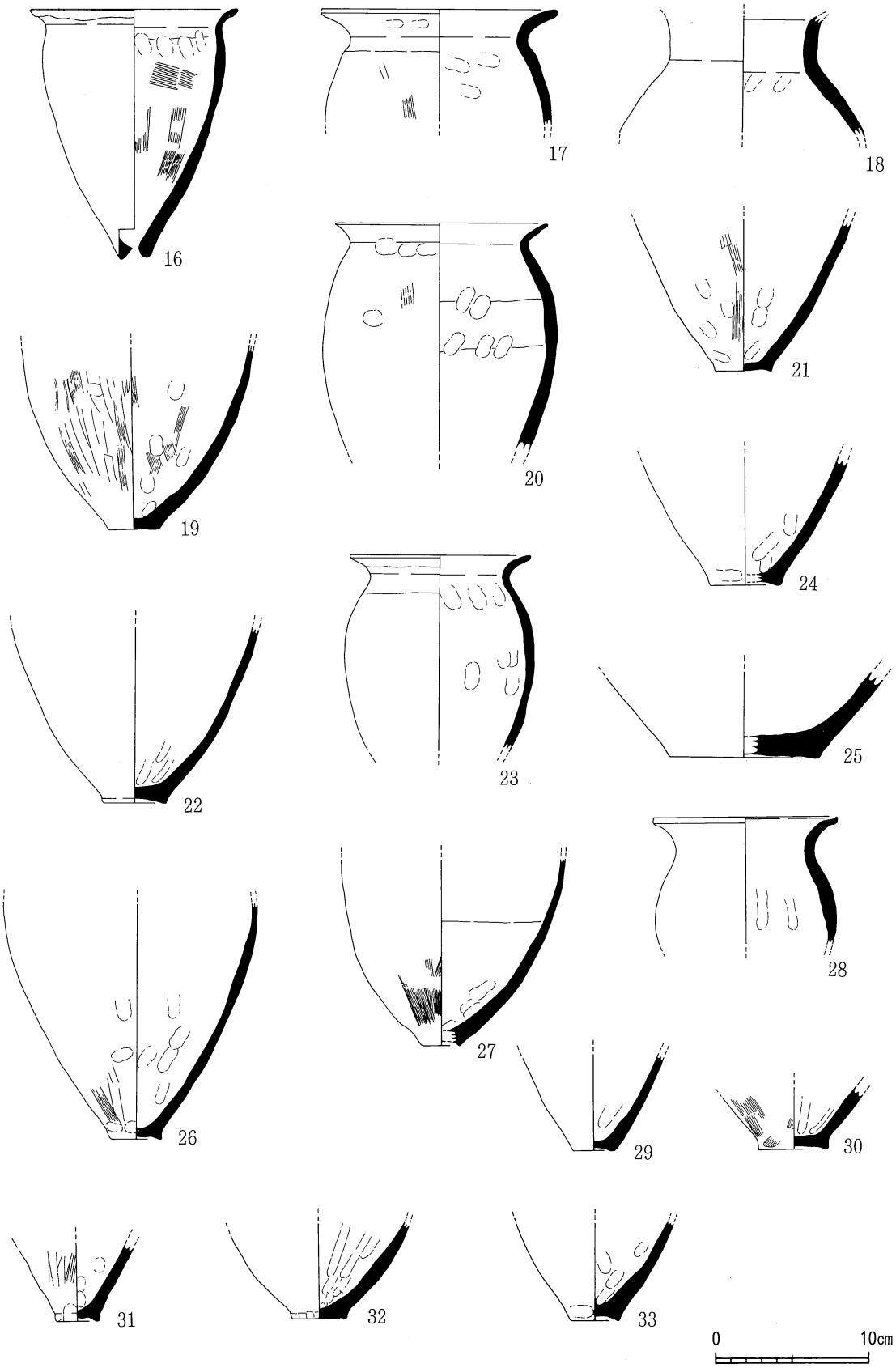


Fig. 8　ST 1 出土遺物実測図

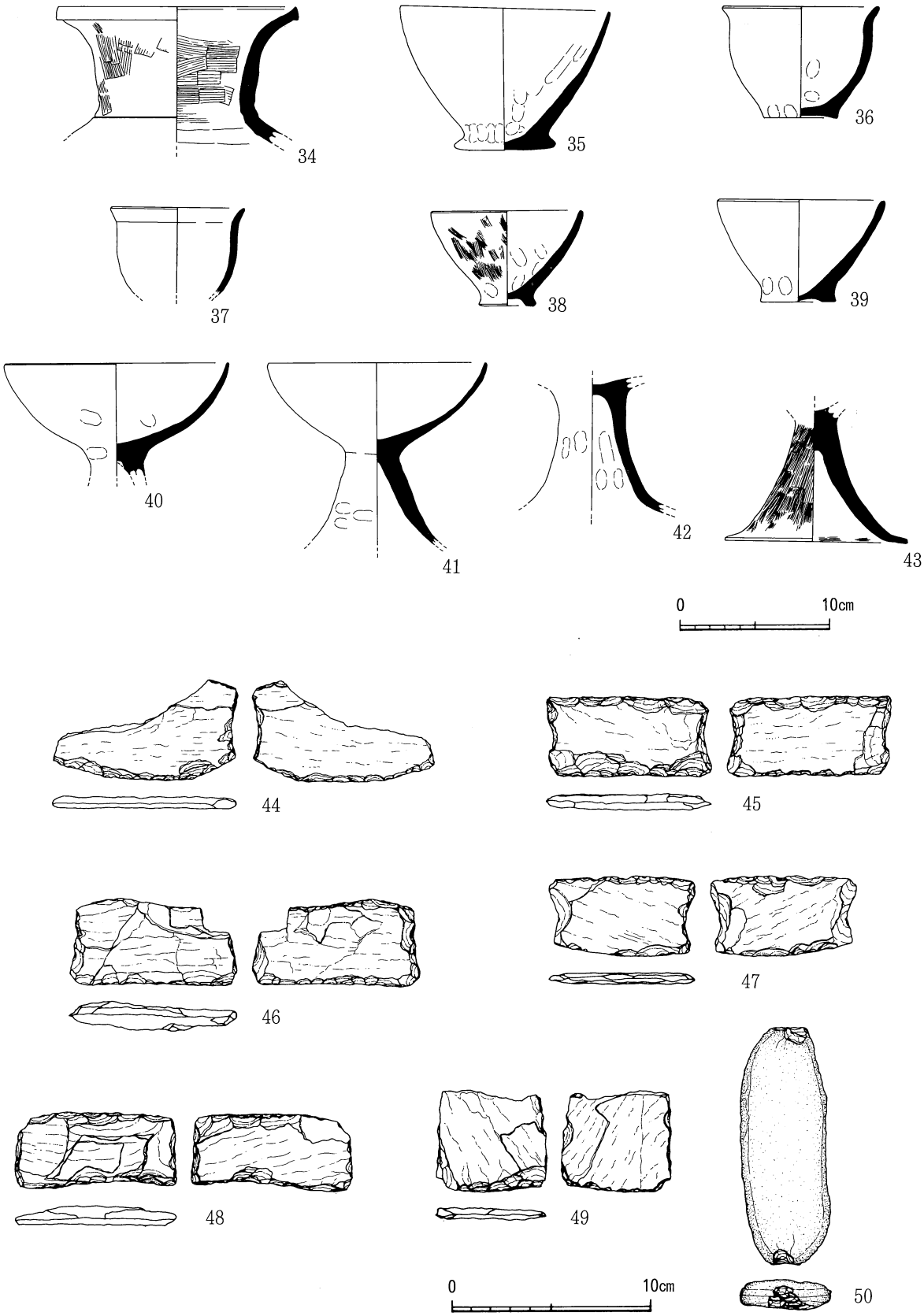


Fig. 9　ST 1出土遺物実測図

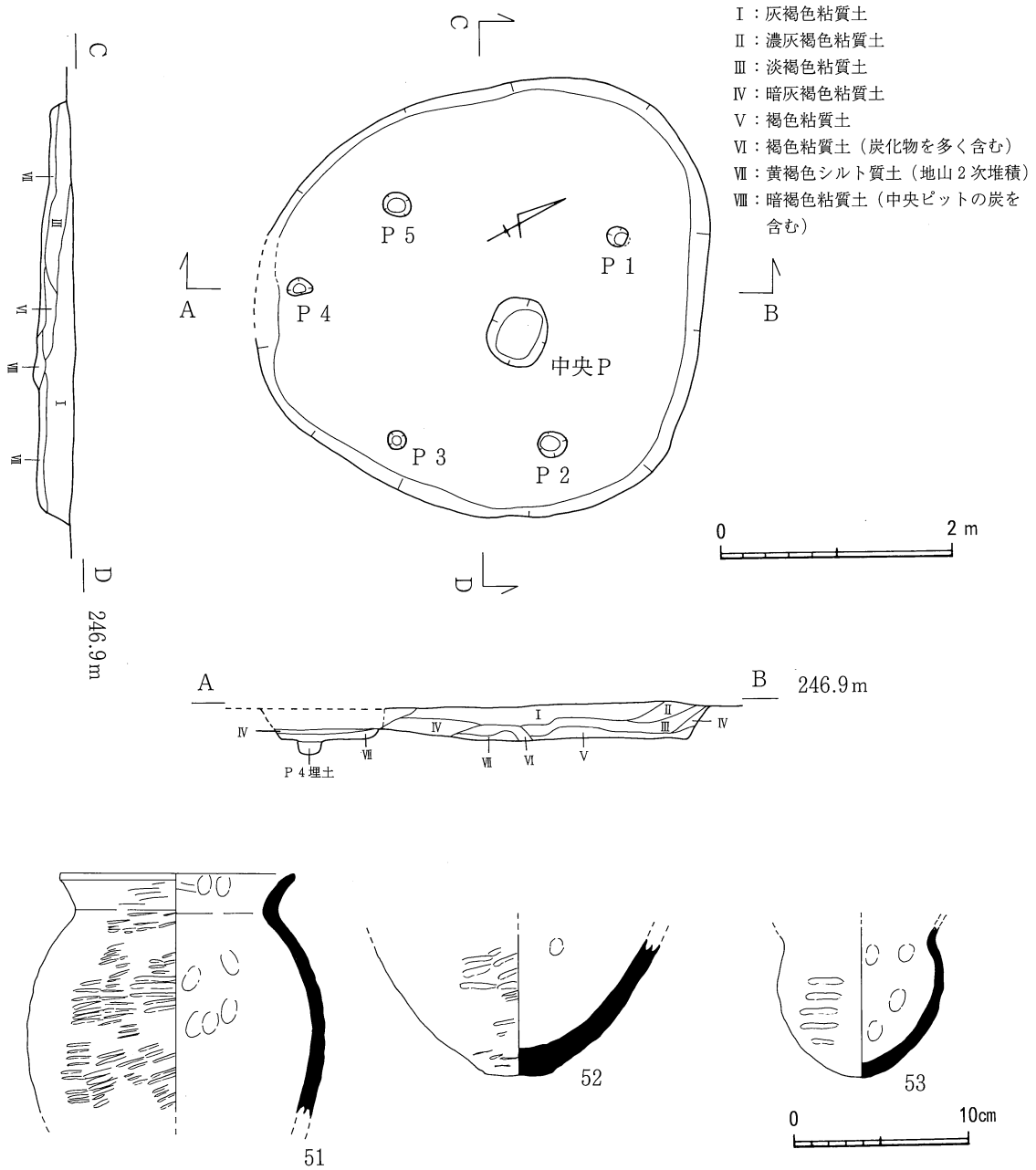


Fig.10　ST ２平面・セクション図及び出土遺物実測図

１が２ｍである。

出土遺物は，叩き目の残る甕，鉢などがあるが，少量である。図示できるのは，51～53である。51・52は，甕である。52の底部は，わずかに平底をとどめている。53は鉢である。いずれも外面は叩き成形がなされている。ST ２は，弥生時代後期後葉に属する。

Tab. 2　ST ２ピット計測表

ピットNO	平面規模(cm)	深さ(cm)	平面形態
P 1	23×20	18	不整楕円形
P 2	径18	14	不整円形
P 3	24×21	19	不整楕円形
P 4	径16	12	円形
P 5	22×15	12	不整楕円形

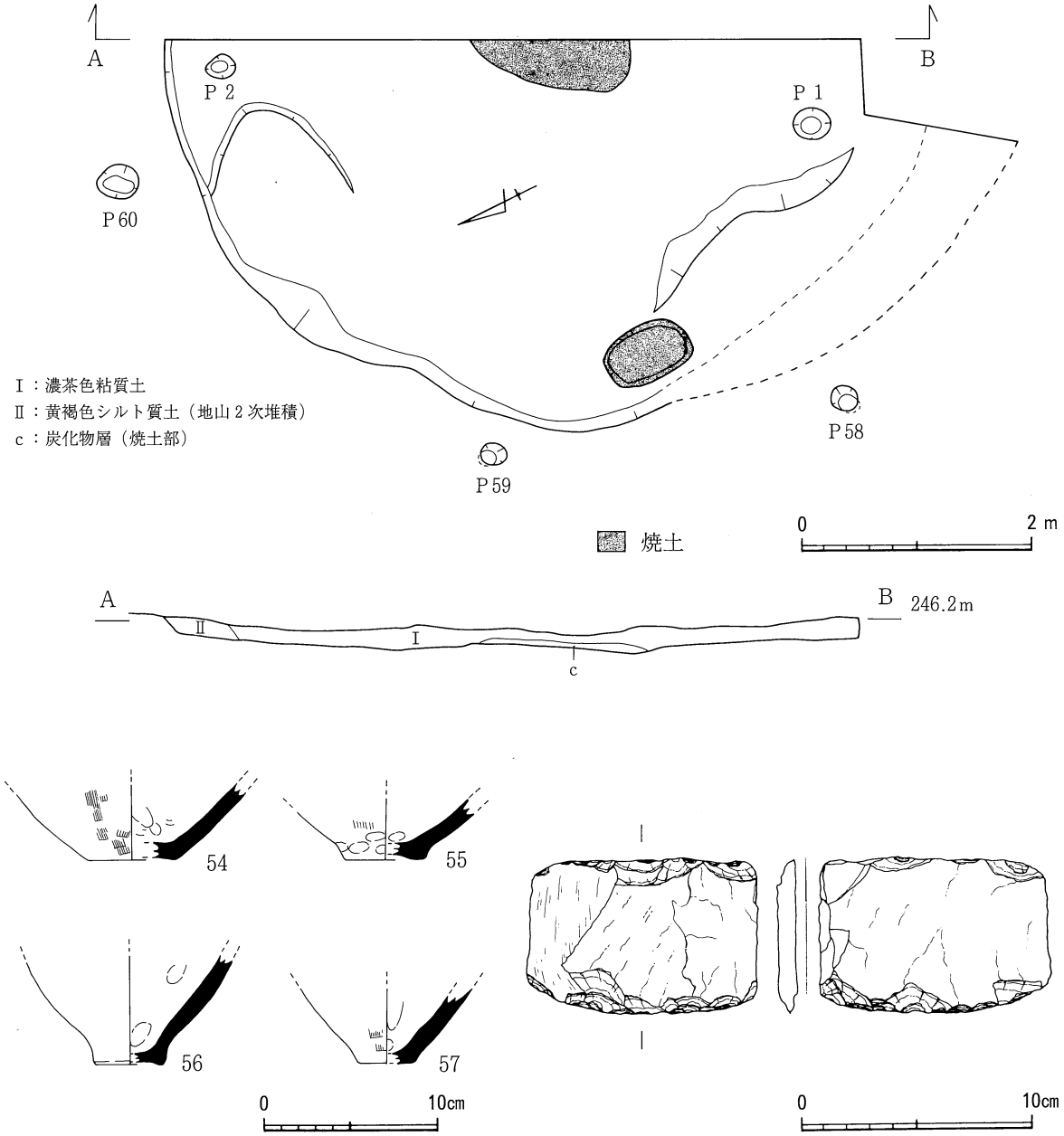


Fig.11　ST ３平面・セクション図及び出土遺物実測図

ST ３（Fig.11）

調査区の西で検出した竪穴住居である。隅丸方形あるいは不整円形の平面形を有するが，半分ほどが調査区外となっており，また，西から南にかけての壁部が削平を受けているため，全体を確認することはできない。長軸はおよそ6.6ｍ前後を想定することができよう。検出面から床面までの深さは，17～30㎝を測る。埋土は，Ⅰ層：濃茶色粘質土が主要層準をなす。床面はほぼ平坦であるが，南西部と北部に地山削り出しによる段が認められる。高床部と低床部の比高差は，南西部で９㎝，北部で６㎝を測る。しかしながら，ベッド状遺構かどうかは明らかでない。住居内のピットとしては，Ｐ１（32×25・深さ20）とＰ２（27×20・深さ11）（単位は㎝）があるが，いずれも壁に

近い位置にあるため，上屋構造に伴うものとは想定し得ない。竪穴の周囲には，ピットP58（24×20・深さ32），P59（24×18・深さ13），P60（36×30・深さ9）（単位はcm）があり，これらは住居の上屋構造を構成する垂木状の柱の柱穴の可能性がある。中央ピットとみられるものは確認できなかったが，住居のほぼ中央と西の壁際に焼土が認められる。

本住居址も遺物が乏しく，図示できるものは54～58である。土器はすべて甕で，55と56は，上げ底の底部を有する。一方，叩き目を残すものは認められなかった。58は結晶片岩製の石包丁である。ST 3は，弥生時代後期中葉に属する。

（2）土　坑

土坑については，出土遺物からみて，弥生時代に属するものと中世に属するものがあるが，遺物の出土がなく，時期，性格が不明なものも多い。出土遺物が認められた主要なもののみ文章で説明し，他のものについては，中世の土坑の項目のあとへ，一覧表（Tab. 3）において法量形態を示した。

SK 2（Fig.12）

調査区の北東部にあり，平面形は方形を呈し，長軸140cm，短軸136cm，深さ20cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり，床面はほぼ平坦である。埋土は茶褐色粘質土単純一層で，出土遺物は，埋土中より，土錘（59）と甕（60）があり，60の外面は激しく煤けている。後期後葉に属する。

SK 4（Fig.12）

ST 1の4mほど南に位置し，平面形は長軸128cm，短軸80cmの楕円形を呈している。深さは90cmほどを測り，南側は上部でテラス状になっている。床面は中央部が凹む。埋土は，地表から37cmほどまでが灰茶色粘質土で，以下，濃茶色粘質土となる。遺物は，床面から10～20cm上方で，弥生土器が多く出土しているが，図示可能なものは4点である。

61・62・63は甕である。いずれも外面ハケ，内面ナデ調整が施されている。62の底部は上げ底になっている。64は高坏の脚部である。後期中葉に属する。有機物は確認できなかったが，その形態から貯蔵穴とみられ，同時期の竪穴住居ST 1との位置関係からみて，ST 1に付属する，貯蔵を目的とした施設である可能性が高い。

SK 5（Fig.13）

調査区の北東隅にある不整形の土坑で，長軸268cm，短軸90cm，深さ20～60cmを測る。埋土は濃褐色粘質土単純一層である。遺物は，埋土中より，弥生後期後葉の甕（65）と壺（66）が出土している。

SK 7（Fig.13）

調査区の南西壁，中ほどにあり，平面形は概ね楕円形を呈する。長軸200cm，短軸80cm，深さ6～10cmを測る。壁は，西側は急傾斜，東側は緩やかに立ち上がっている。埋土は暗褐色粘質土単純一層である。遺物は，埋土中及び底面より，後期後葉の甕（66・67・68・70・71・72・74・75），壺（69・73・76），高坏（77）などが多量に出土している。77は，角閃石を含む胎土に讃岐の土器にみられる特徴があり，讃岐からの搬入品である可能性がある。

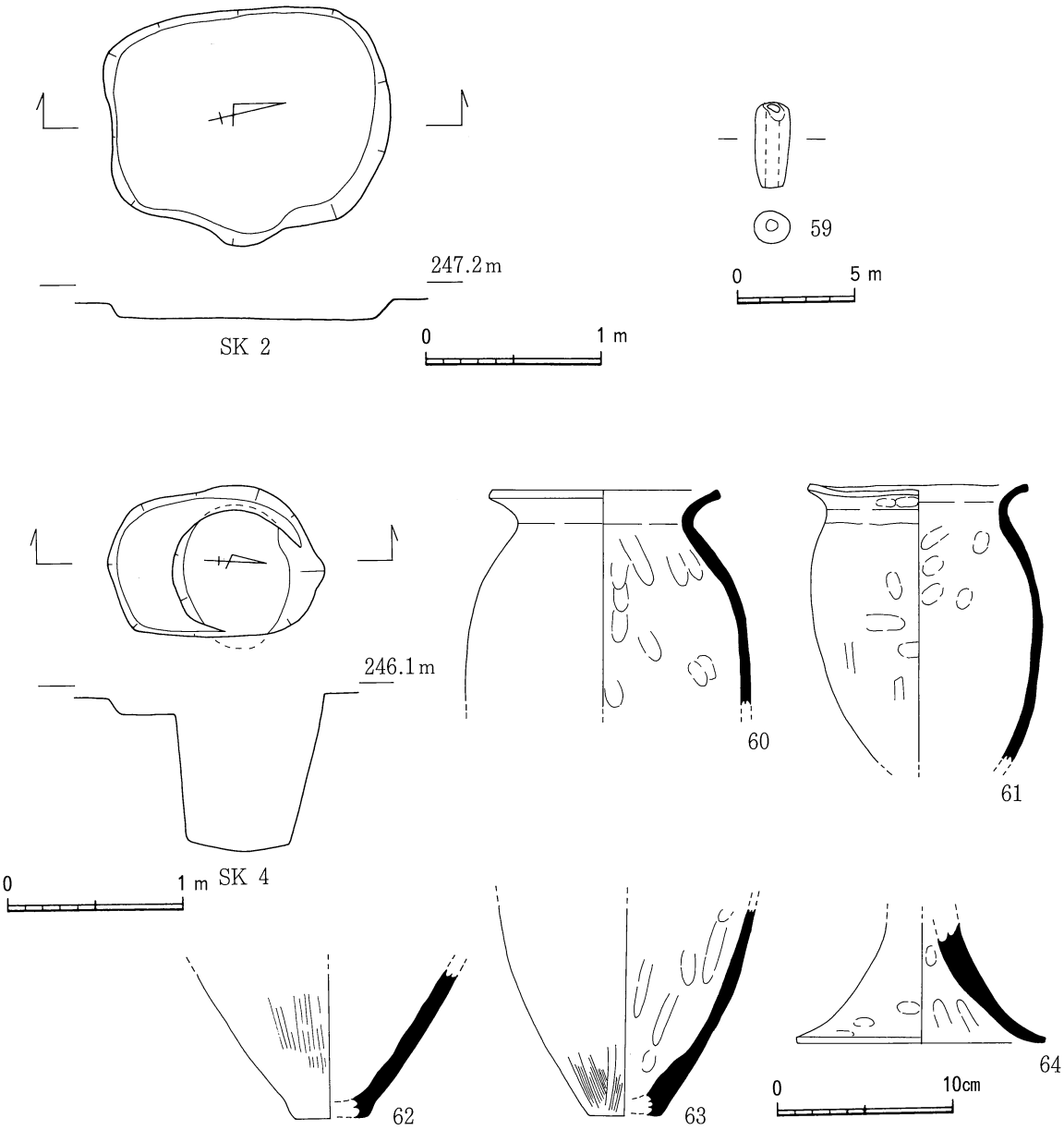


Fig.12　SK 2・4平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

SK 17（Fig.14）

調査区の南のなかほどに位置し，SK 13の床面で検出した。長軸128cm，短軸84cm，深さ20～32cmを測り，平面形は不整楕円形を呈する。埋土は灰褐色粘質土単純一層である。遺物は埋土中より出土しており，壺（78）口縁部はラッパ状に強く外反するタイプで，後期後葉以降～古墳時代初頭に盛行するものである。鉢（79）は外部が被熱赤変し，激しく煤けている。

SK 24（Fig.14）

調査区の最北部に位置し，不整円形の平面形を呈している。長軸132cm，短軸108cm，深さ80cmを測る。南側の1部はオーバーハングしており，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。床面は緩やかに凹になっている。埋土はその中ほどで上層と下層に分かれ，上層は黒褐色粘質土，下層は褐色粘質

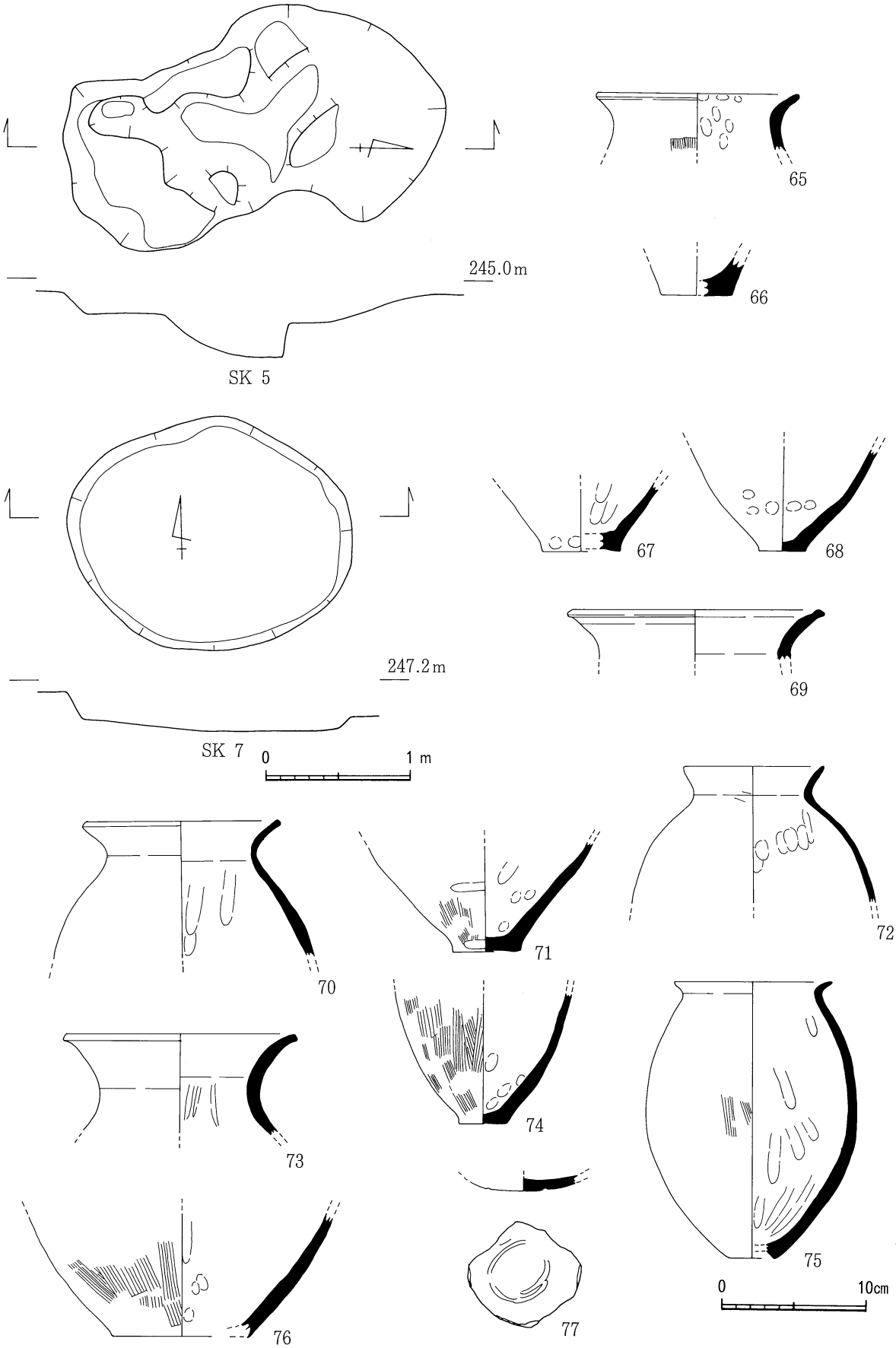


Fig.13　SK 5・7平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

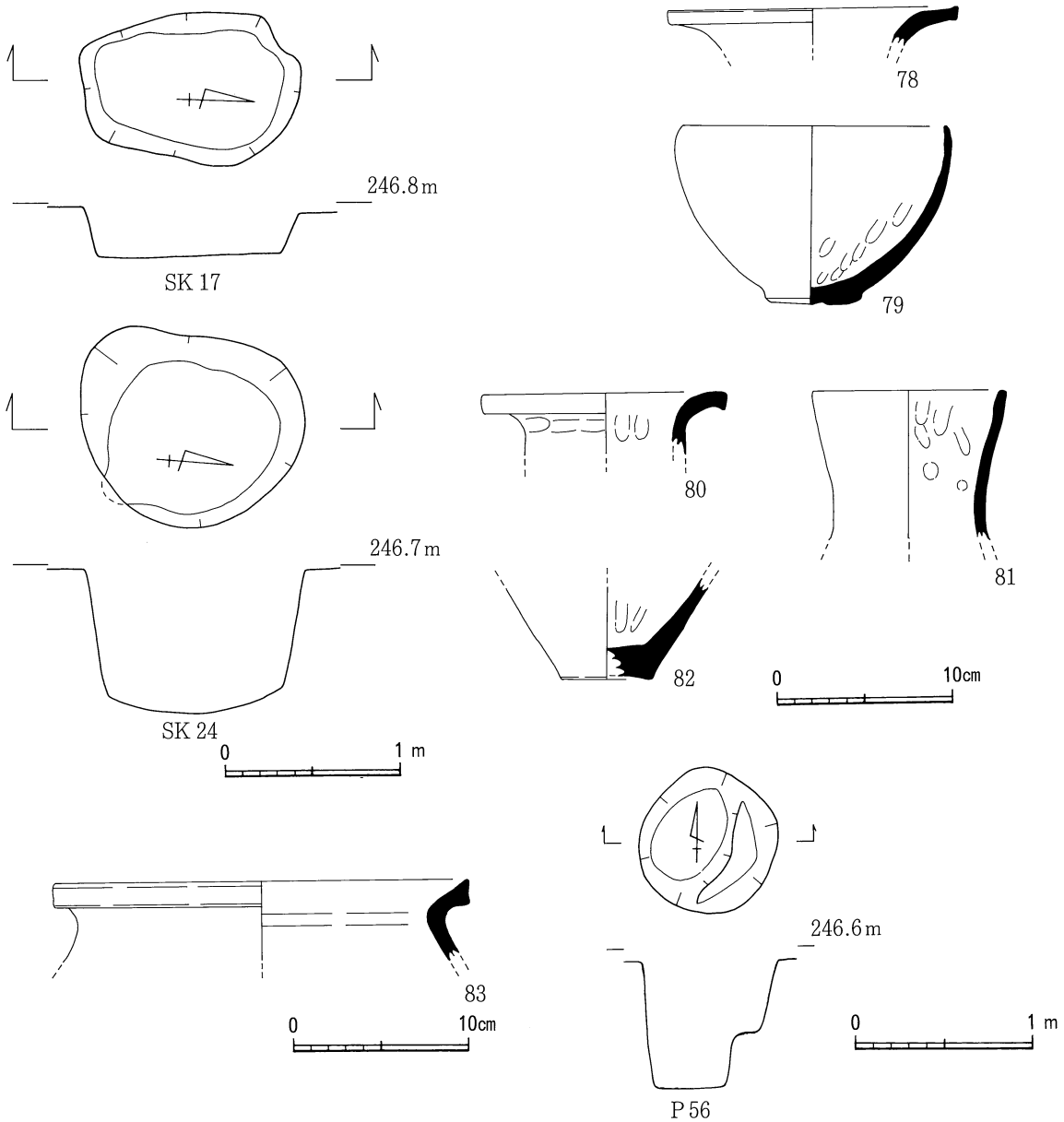


Fig.14　SK 17・24，P 56平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

土となる。埋土中より，弥生後期の内外ナデ調整を基調とする壺（80，81）や，甕（82）が出土している。

（3）ピット

ピットは多数検出したが，遺物が出土せず，時期不明のものが多い。また建物を構成するものは確認できなかった。ここでは遺物の出土したピットのみ説明する。

P 56（Fig.14）

ST 1とST 2のほぼ中間にある。平面形は不整円形を呈し，径はほぼ80cmを測る。内部は東側でテラス状となった後，最深部に至り，72cmを測る。埋土中より甕（83）が出土している。後期に属する。

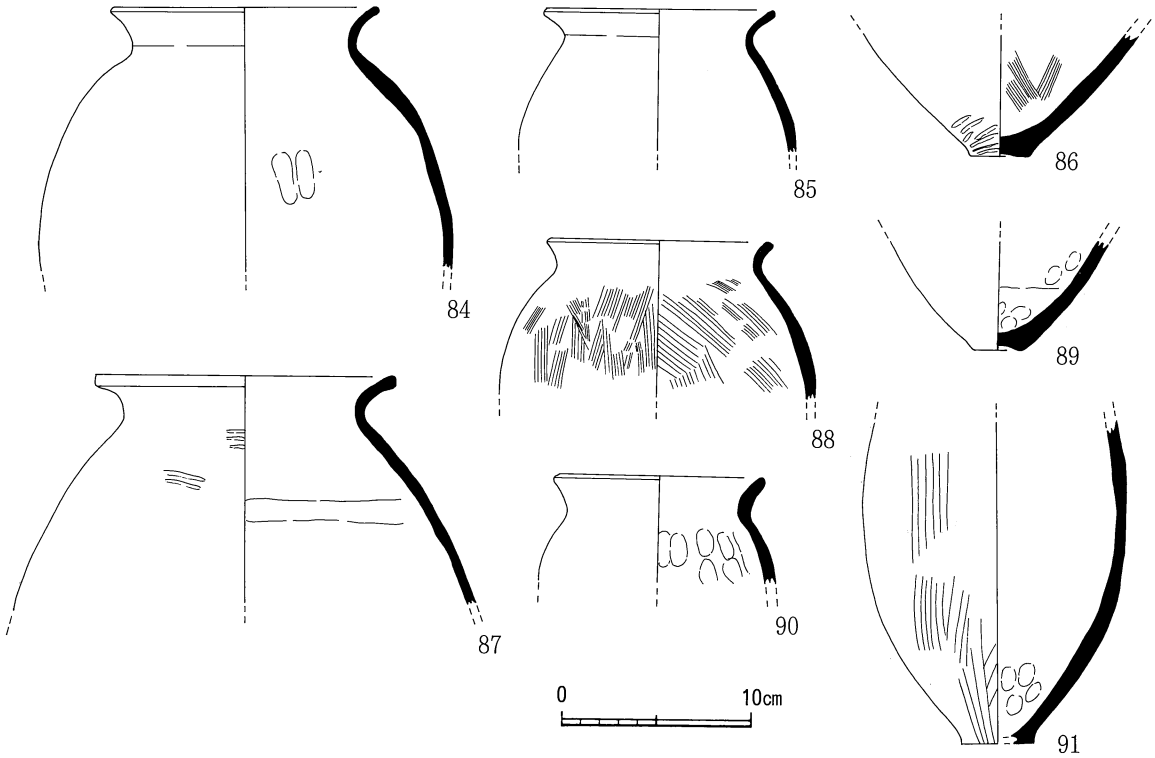


Fig.15　Ⅸ層上面からの集中出土遺物実測図

（４）包含層Ⅸ層上面からの集中出土遺物（Fig.15）

調査区中，Ⅸ層：茶灰色粘質土，座標Ｎ－５を中心とする半径２メートルほどの範囲で，Ⅸ層の上面から30点ほどの遺物が出土している。Ⅸ層は，ST ３の検出面の直上の土層であり，座標Ｎ－５は，調査区の南西に位置し，地形は東に緩傾斜している。今回の調査においては，遺構以外では遺物の出土は散発的であり，包含層からの遺物の出土には一定のまとまりはみられない。このため，Ⅸ層上面の座標Ｎ－５を中心とする範囲で遺物が出土した時点で，遺構の存在する可能性も想定されたが，結果としては遺構の存在は認められなかった。偶発的に一定のまとまりを持って土中に埋もれたものとみられる。同様の例は，同じ本山町の堀ノ尻遺跡や永田遺跡でみられる。しかし，永田遺跡のような煮沸を伴う祭祀の可能性については不明である。

ここでは，出土遺物中，84～91までの８点を図示する。すべて甕であり，底部の確認できるもののうち，86と89はわずかに上げ底となっている。また，86は底部に，87は胴上部に叩き成形が認められる。上げ底の底部は，瀬戸内色の強い技法であるが，高知では弥生時代後期中葉にのみみられる。これに対し，叩きは，弥生時代後期後葉のポピュラーな成形技法である。86には上げ底の底部と叩きが混在しているが，これは，当該地域に叩き技法が伝わった当時に制作されたものとしてみることができる。

3．中世の遺構と遺物

土坑・ピットとも多数検出したが，弥生の項目でも触れたように出土遺物がなく時期が特定できないものが多い。またピットについては，建物を構成するものは中世においても確認できなかった。ここでは遺物の出土したものについてのみ，文章で説明する。なお，その他の土坑については一覧表（Tab. 3，Fig.17・18）で示す。

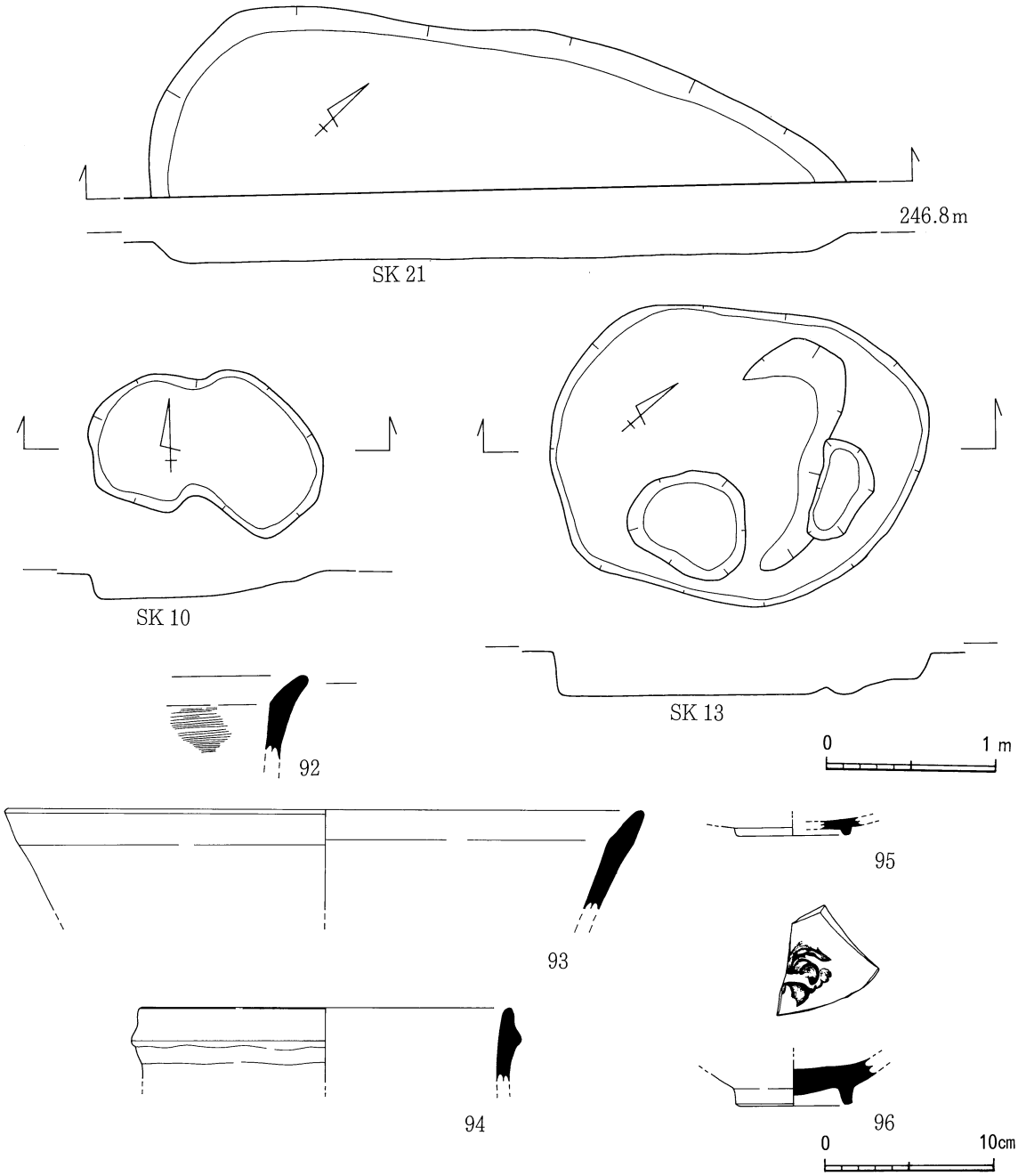


Fig.16　SK 10・13・21平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

（1）土　坑

SK 10（Fig.16）

調査区の西ほぼ中ほどに位置し平面形は不整形を呈する。長軸140cm，短軸72cm，深さ6～22cmを測る。壁は西側から急傾斜で立ち上がり，床面は西側に向けて低く傾斜している。埋土中より土師椀（95）が出土している。この土坑は中世に属する。

SK 13（Fig.16）

調査区の南西に位置し平面形は楕円に近い。長軸226cm，短軸176cm，深さ10～25cmを測る。北東部がテラス状となるほか，土坑内土坑が2基認められる。埋土は灰褐色粘質土である。中世の鍋（92）が出土している。この土坑は中世に属する。

SK 21（Fig.16）

調査区の中ほどに位置し，長楕円形の平面形を呈していると考えられるが半分以上が調査区外にあるため，全体形は明確ではない。壁は緩やかに立ち上がり，床面はほぼ平坦である。土師鍋（93）15世紀の土師鍋（94），青磁椀（96）が出土している。中世に属する。

Tab. 3　遺物皆無の土坑計測表

	平　面　形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）
SK 1	不整長方形	144	76	5
SK 3	隅丸長方形	272	104	26
SK 6	隅丸台形	152	136	16～18
SK 8	不整円形	188	176	30
SK 9	不整楕円形	132	124	34
SK 11	楕円形	136	88	10～14
SK 12	隅丸長方形	136	88	7～16
SK 14	長方形	136	88	20～24
SK 15	隅丸長方形	184	124	48
SK 16	隅丸長方形	196	88	28～40
SK 18	隅丸長方形	140	80	60～64
SK 19	隅丸長方形	176	100	52～60
SK 20	隅丸長方形	200	76	30
SK 22	隅丸長方形	156	104	20
SK 23	長方形	208	80	28

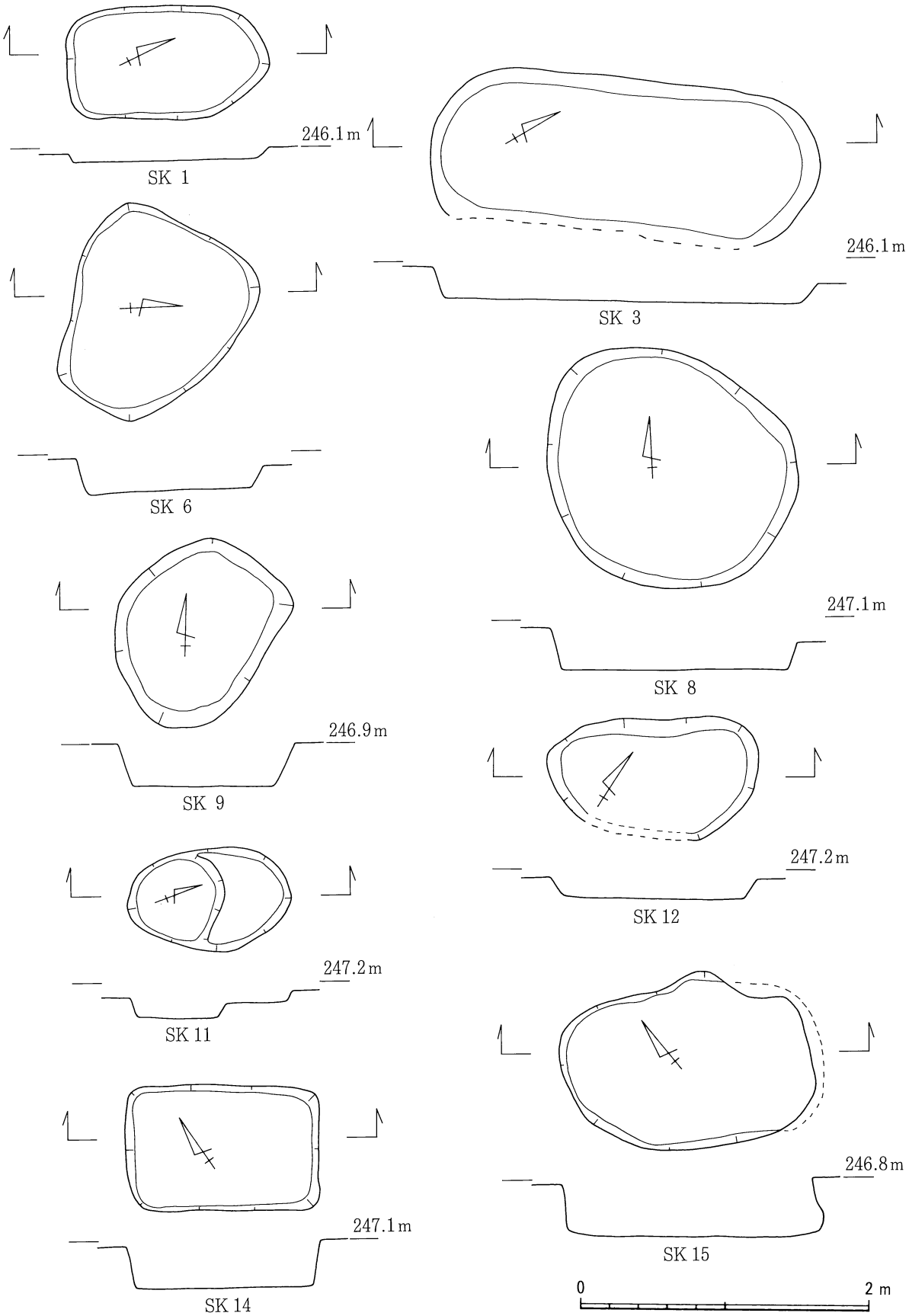


Fig.17　SK 1・3・6・8・9・11・12・14・15平面及びエレベーション図

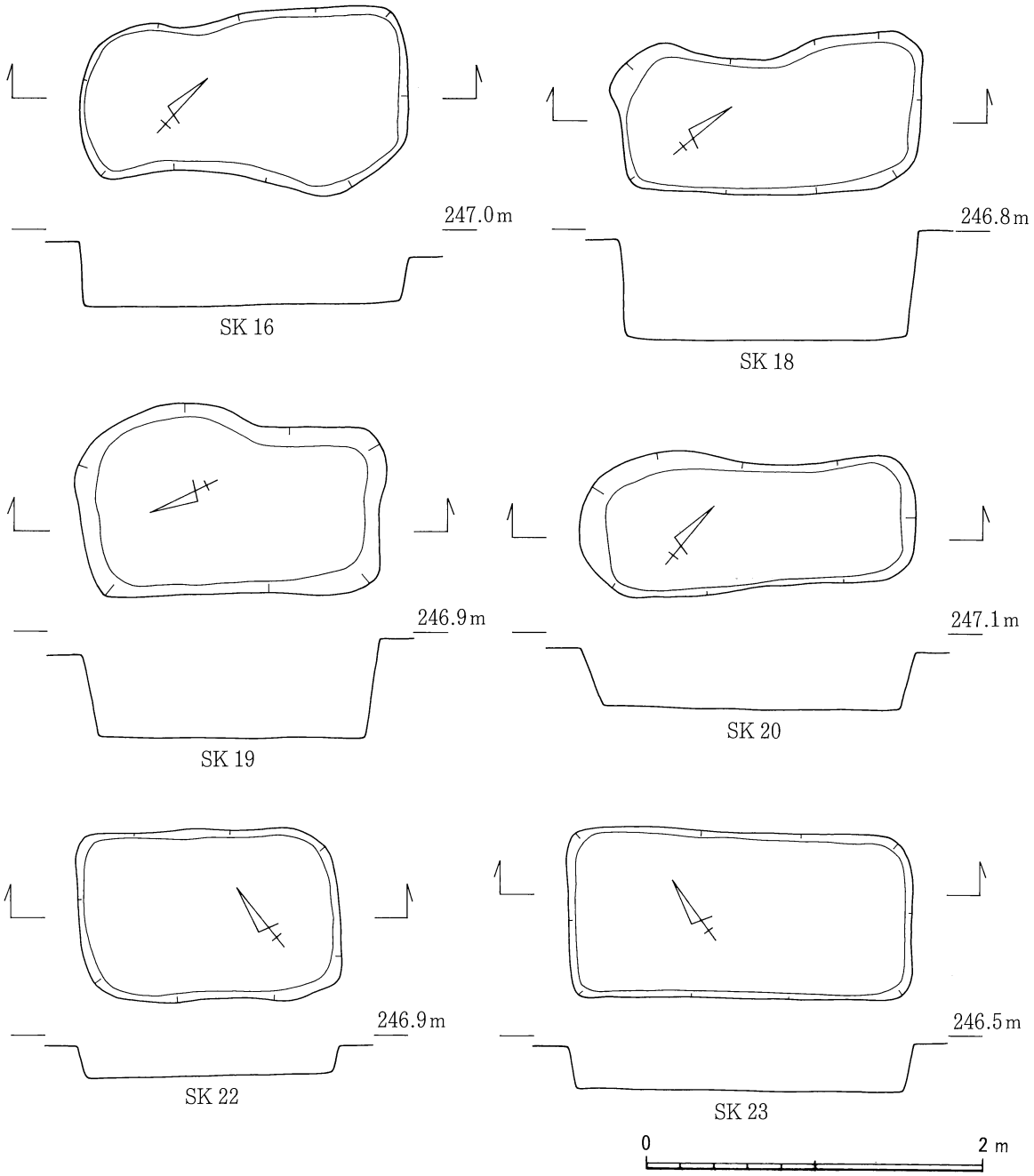


Fig.18　SK 16・18・19・20・22・23平面及びエレベーション図

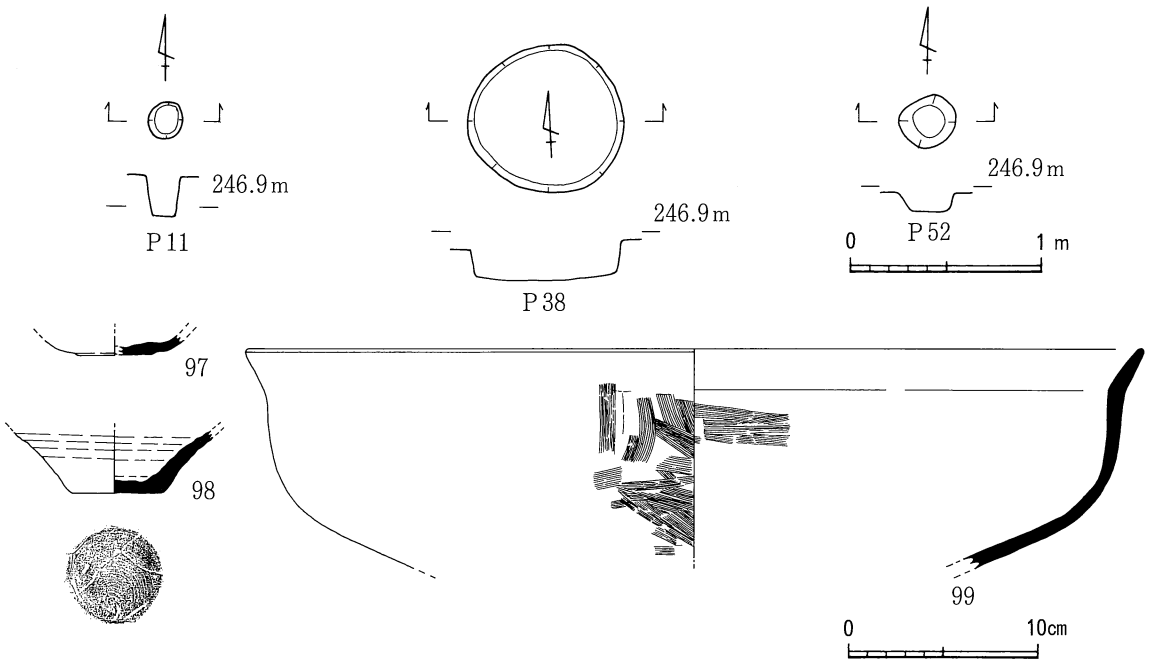


Fig.19　P 11・38・52平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

（2）ピット

P 11（Fig.19）

調査区の西にあり，平面形はほぼ円形を呈する。径が20cm，深さ20cmを測る。埋土は褐色粘質土である。埋土中より土師器坏（97）が出土している。97は精選された胎土で底部は回転糸切りとなっている。中世に属する。

P 38（Fig.19）

調査区の西やや中ほどにあり，平面形は円形を呈する。径が80cm，深さ20cmを測る。埋土は褐色粘質土である。底面壁際より室町後期と見られる土鍋（99）が出土している。99の内面底部と外面は煤けている。中世に属する。

P 52（Fig.19）

調査区の西やや南にあり，平面形は不整楕円形を呈する。径が30cm×26cm，深さ10cmを測る。埋土は褐色粘質土である。埋土中より土師器坏（98）が出土している。98は内外面のロクロ目が顕著で底部は回転糸切りとなっている。中世に属する。

4．包含層出土の遺物

堆積土のうちⅢ層からⅨ層までが遺物包含層を形成しているが，中世と弥生時代の遺物が同一の土層に含まれるなど，純粋な包含層の層位は示していない。ここでは包含層出土の遺物のうち，図示できるものについて，時代別に説明する。

（1）縄文時代

縄文時代の遺物としては早期の所産と考えられるトロトロ石器（136）が1点出土している。石材はチャートでほぼ完形品である。全長3.7cm，厚さ0.4cm，重さ3.7g，幅は基部で2.4cmを測る。一面は細押圧剥離が施され他の一面には，中央部に剥離面が残る。基部の双部は非対称的に開く。

（2）弥生時代

(1) 土器

① 甕

前期のものとして，154が出土している。西見当Ⅰ式に属するもので，嶺北地域における最古の遠賀川式土器として位置付けられる。この遺物については，第Ⅴ章まとめで，詳しくのべる。このほかに，後期のものとして，100～105，107，115，117，122，124，134，137，143，145，154～158が出土している。

105，115は底部が上げ底を成す。86，87，106，134は叩き痕跡を残す。

② 壺

106，108，109，112，114，125が出土している。109・125は上げ底を持つ。106は叩き成形である。

③ 鉢

110，111，113，120，138，142，161，164が出土している。110，111，161，164は台形状の底部を持ち，指頭圧痕が顕著に見られる。113は上げ底を成す。142は脚付き鉢と見られる。

④ 高坏

116，139が出土している。ともに脚部である。

⑤ 土錘

1点のみ130が出土している。

(2) 石器・鉄器

① 石器

打製石包丁（170）が出土している。石材は結晶片岩である。

② 鉄器

鉄鏃（128，129）が出土している。

（3）中　世

① 土師器

鍋（118，121，135），坏（141）が出土している。鍋は中世の典型的な大型鍋で外面は激しく煤けている。嶺北地域で比較的多く出土するタイプである。

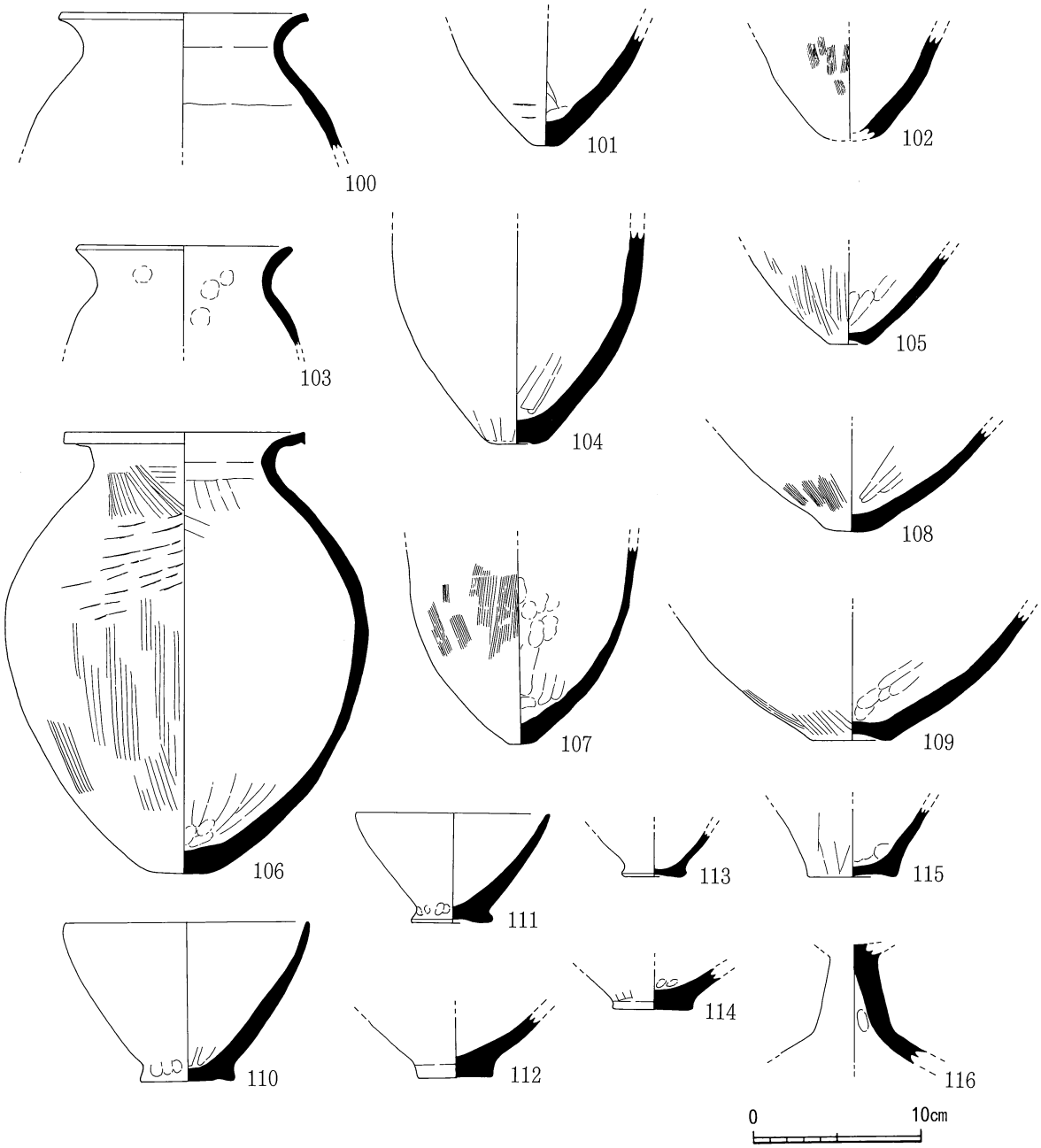


Fig.20　包含層出土遺物実測図

② 白磁

皿は144，151，160が出土している。144は口ハゲタイプの皿，151は内湾タイプ，160は端反りの小皿である。

③ 青磁

碗（123，126，127，132，133）と皿（153，167）がある。碗はすべて龍泉窯系のものである。126は内底に草花文，127は内面に飛雲文，133は鎬蓮弁文，166，168，169は細蓮弁文を施している。

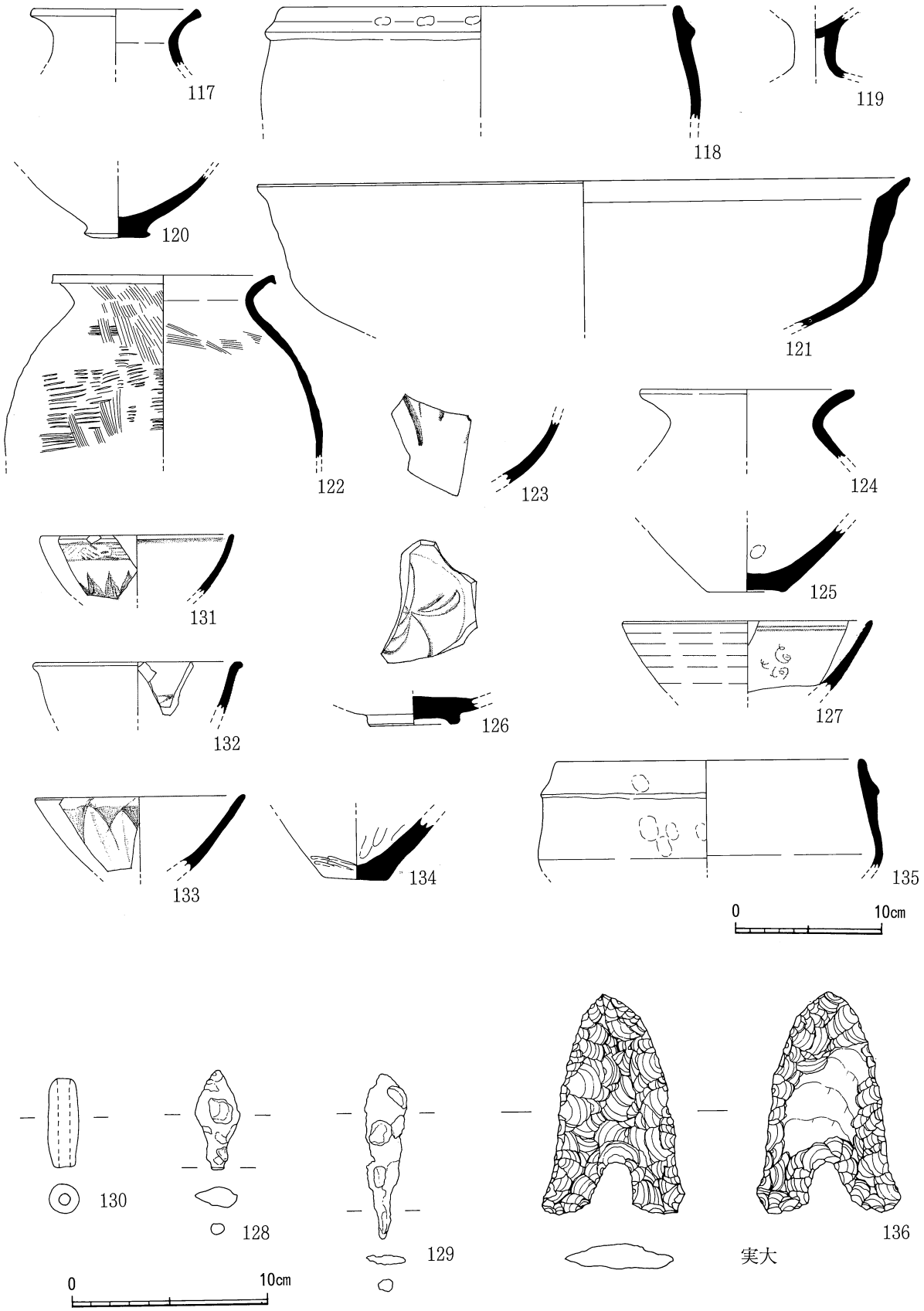


Fig.21　包含層出土遺物実測図

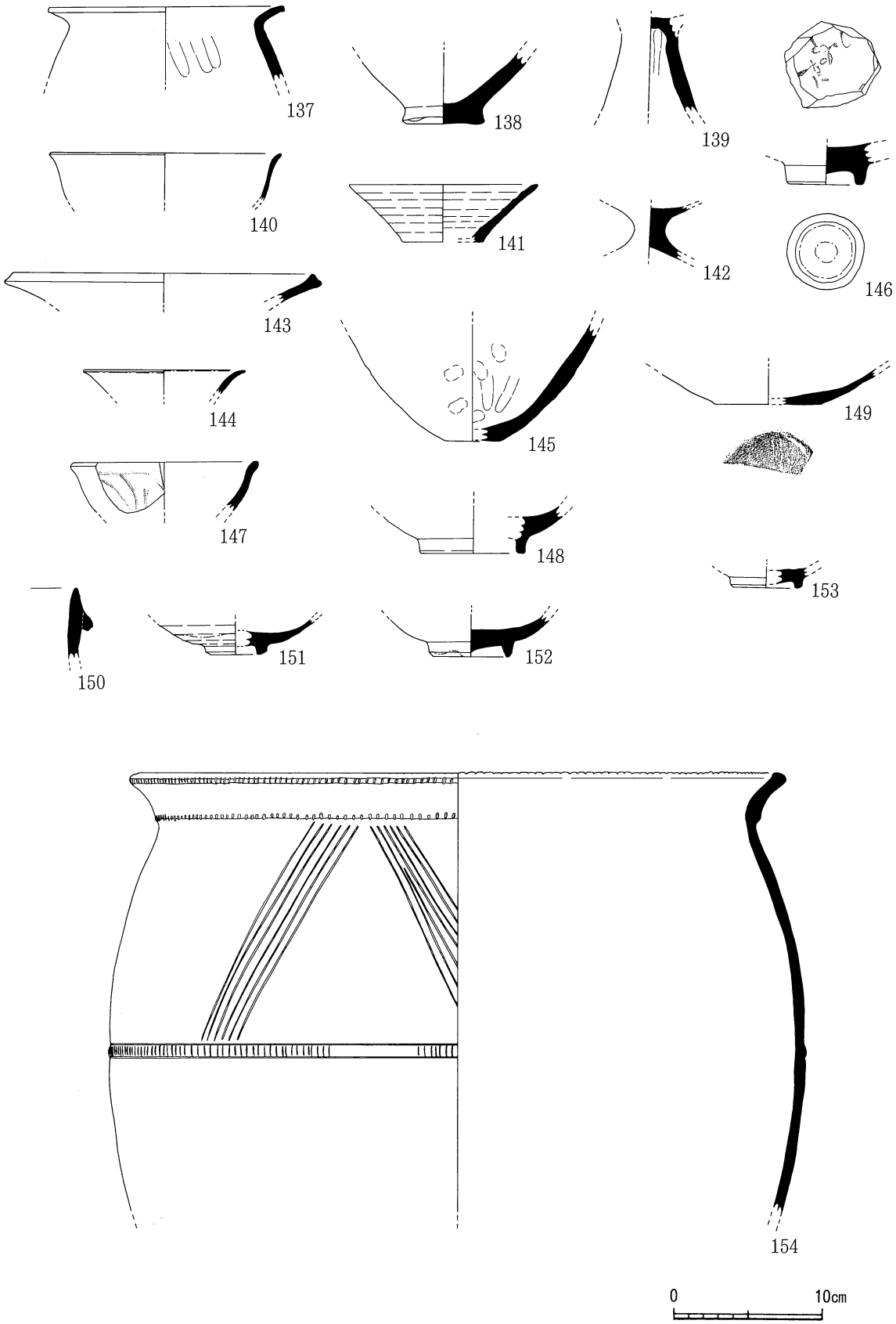


Fig.22　包含層出土遺物実測図

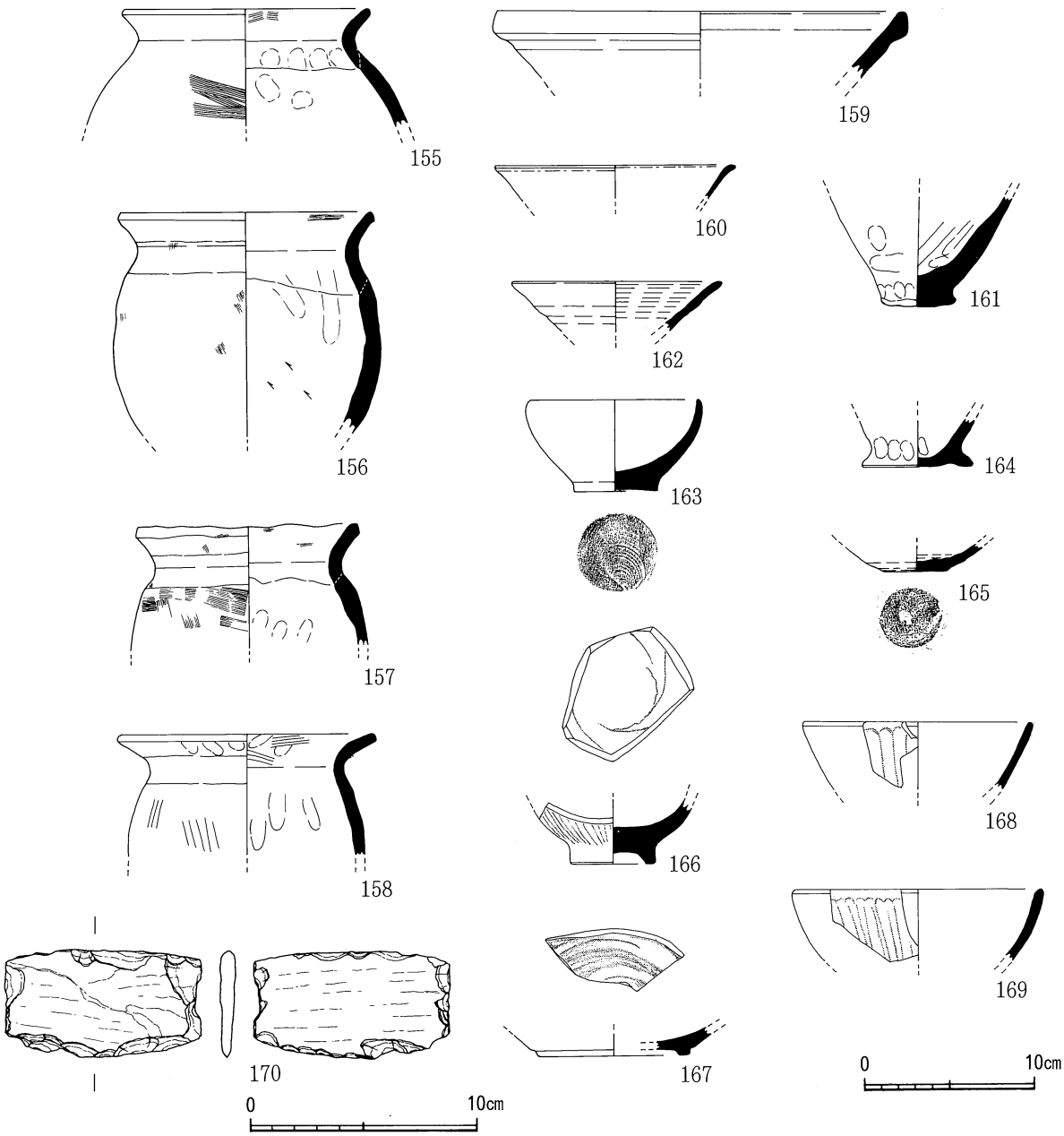


Fig.23　包含層出土遺物実測図

④　染付け

いわゆる陶胎染付の碗である（131）。体部外面に芭蕉文，口縁外面に波濤文，口縁内面は堺線を描く。

この他，東播系のコネ鉢（159）と肥前系の鉢（167）が出土している。

第V章　ま　と　め

今次調査では，遺構の時期・性格について不明なものも多いが，出土遺物からみて，銀杏ノ木遺跡は，縄文時代早期，弥生時代前期及び後期，中世にわたる遺跡といえる。特に，弥生時代後期中葉から後葉にかけてと中世15世紀に盛行期を持つ。ここでは，これらの遺構・遺物のうち，当遺跡を特徴づける縄文時代と弥生時代についてまとめる。

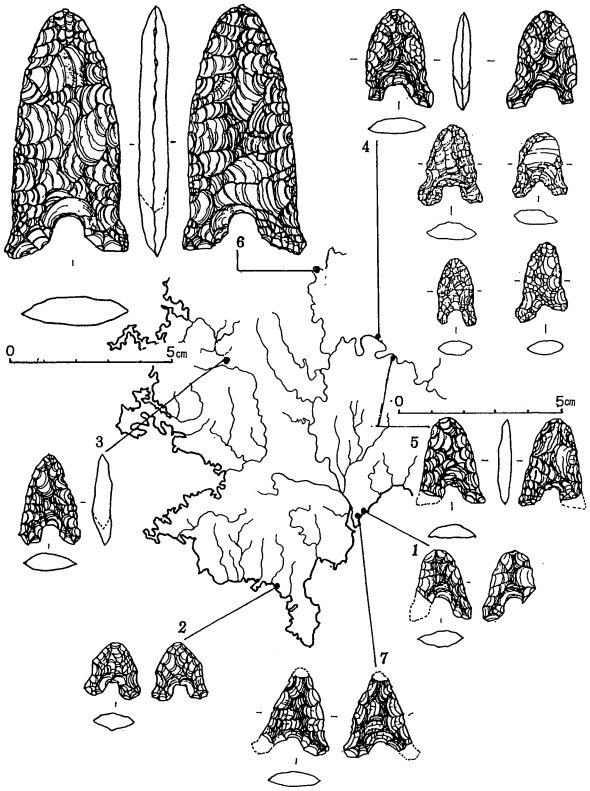
1．縄文時代早期の石器について

今次出土遺物のうち，もっとも時代を遡るものとして，縄文時代早期の所産とみられるトロトロ石器（136）が1点，包含層中より出土している。土器の共伴はみられなかった。この石器は，形態は石鏃と同様であるが，石質，先端，脚部は本石器特有のものを持ち，その機能は石鏃の範疇では捉えられないものである[(1)]。これまで四国の西南部から11例出土している（Fig.23）のみであり，本県中央部からの出土としては，初例となった。当遺跡周辺で縄文時代早期のものとしては，西方に所在する長徳寺遺跡から蔦島式土器，また大型楕円押型文の高山寺式土器が出土[(2)]しており，トロトロ石器の出土は，その分布圏に新たな一石を投じるとともに，該期の嶺北地域を検討する上で，重要な資料となった。

註

（1）木村剛朗『四国西南沿海部の先史文化』
　　幡多埋文研　1995年

（2）岡本健児他『長徳寺址発掘調査報告書』
　　高知県長岡郡本山町教育委員会　1977年



1．双海本駄場　2．下益野B地区　3．影平B地点　4．十川駄場崎
5．奈路　6．岩谷　7．平野茶園

Fig.24　西南四国における縄文時代早～前期の
トロトロ石器と出土遺跡分布図

木村剛朗『四国西南沿海部の先史文化』890ページ第621図を縮少して転載

2．弥生文化の「伝播」ルートとしての嶺北

今次調査において，僅か１点ではあるが遠賀川式土器の甕（Fig.21－154）が出土した。高知平野の編年に併行関係を求めると前期Ⅰ－２期[1]，岡本健児氏の編年では西見当Ⅰ式に該当させることができる[2]。この土器の特徴は，壺の有段口縁に類似した段部と縄文晩期土器の伝統を残す胴部の削り出し状の突帯にある。この種の甕は，前期Ⅰ－２期の中でも僅少であるが，類似例を西見当遺跡８号貯蔵穴出土の甕に求めることができる[2]。銀杏ノ木遺跡の上流にある松ノ木遺跡からも最近数点の遠賀川式土器が出土して注目されているが，松ノ木遺跡のものは前期Ⅰ－３期，岡本編年による西見当Ⅱ式に該当するものである。したがって，今次出土のものは嶺北地域における最古の遠賀川式土器として位置付けることができる。前期Ⅰ－２期に遡る遠賀川式土器の出土例は，高知平野の田村遺跡，仁ノ遺跡，県西部の中村平野にある入田遺跡以外では認められない。南四国において遠賀川式土器が，平野部から中小河川の中上流域に分布するようになるのは，これまでの事例によると弥生前期の遺跡が増加しはじめる前期後葉，すなわち前期Ⅰ－４期の段階を待たなければならない。

したがって，本例は松ノ木遺跡の諸例とともに，南四国における遠賀川式土器分布の諸段階一般とは，異なった状況を示すものである。このような現象の背景については，すでに当地域が瀬戸内と高知平野とを繋ぐ物流ルートの中継地としての重要な役割を果たしていたことについて述べたが[3]，今回の事例はそのことをあらためて示したものである。隣接する永田遺跡や松ノ木遺跡からは縄文晩期末葉の刻目突帯文土器が出土し，八反坪遺跡からは晩期中葉の土器が出土している[4]。これら一連の晩期土器は，中部瀬戸内の谷尻式や沢田式に類似するものであり，四国山中にあって当地域は中部瀬戸内の土器分布圏に属していたことが窺える。一方，高知平野における晩期土器の出土は未だ僅少ながらも，やはり中部瀬戸内的特徴を備えている。

すでに周知のように，高知平野の中央部にある田村遺跡においては，近年，弥生文化成立期の極めて良好な資料の検出が相次いでいる。いわゆる松菊里型住居や掘立柱建物で構成される初期の集落址やそれに続いて営まれる環濠を有する集落址，それらに伴う一括性の高い土器や石器などは，弥生文化の成立を明らかにする上で刮目すべき資料として俄に注目を集めるようになった。かつて，高知平野における弥生文化の成立は，県西部からの伝播の結果とされてきたが，最近の知見には対応しないものであり，中部瀬戸内で生成されたものと理解せざるを得ない状況にある[5]。筆者はすでに弥生文化成立期の高知平野は環中部瀬戸内の土器文化圏に属することを述べたが[6]，これは銀杏ノ木遺跡や松ノ木遺跡が存在する嶺北地域を介してはじめて可能になるのである。弥生文化成立期前後に果たした嶺北地域の役割については，今後さらに追究していかなければならない。

（出原恵三）

註

（１）出原恵三「土佐」『弥生土器の様式と編年』四国編　木耳社　近刊予定

（２）岡本健児「西見当Ⅰ式土器とその縄文的要素」『考古学ジャーナル』NO.170　1970年

（３）出原恵三「弥生前期土器」『松ノ木遺跡Ⅳ』高知県長岡郡本山町教育委員会　1996年

（4）岡本健児「八反坪遺跡出土の土器」『玉屋敷・八反坪遺跡と出土遺物』高知県土佐郡土佐町教育委員会 1981年
（5）高橋　護「弥生文化のひろがり」『弥生文化の研究　9』有山閣　1986年
（6）出原恵三「南四国における弥生文化の成立」『土佐史談』200号　土佐史談会　1996年

3．弥生後期の銀杏ノ木遺跡とその周辺

当遺跡周辺は，高知県の中央北部にあって，縄文時代から古墳時代初頭にかけての遺跡が数珠繋ぎに密集した地域である。これは吉野川の河岸段丘上に平坦地が形成された良好な立地条件に起因するところが大きいと考えられ，当該地域の遺跡の大半が，吉野川とその支流沿いに集中している。殊に弥生時代後期後葉から古墳時代初頭にかけては，遺跡数がその前後の時代と比して飛躍的に増加する時期である。該期の代表的な生活遺構である竪穴住居は，18棟が検出されているが，内訳は，当遺跡の上流側に位置する松ノ木遺跡[1]から14棟，さらに西の吉野川支流である地蔵寺川右岸に位置する田畠遺跡[2]から2棟，そして，下流側の永田遺跡[3]で2棟となる。このほか，嶺北高校校庭遺跡[4]，堀ノ尻遺跡[5]，八反坪遺跡[6]からは，竪穴住居の検出はないものの，弥生時代末から古墳時代初頭にかけての土器が出土している。

こうした状況に対し，銀杏ノ木遺跡では，今回，竪穴住居を3棟検出した。このうち2棟は，弥生時代後期中葉（後期Ⅱ－3期）に属するものである。これまでに検出された竪穴住居はいずれも後期後葉（後期Ⅲ－1期）をさかのぼるものはなく，当該地域における弥生期の竪穴住居検出例としては，もっとも古い段階に位置付けられる。銀杏ノ木遺跡では，前回，1981年の調査の際にも，後期Ⅱ－3期に比定される上げ底状の底部を持つ甕が出土[7]しているが，今次調査での竪穴住居の検出により，該期の集落址の存在が明確となった。その他の遺跡でこの時期のものとしては，唯一，永田遺跡の土坑SK 32をあげることができる。ともに土器編年後期Ⅱ－3期に属する土器，殊に小型で上げ底の底部を有する土器が大量に出土している。土器底部を上げ底に成形する手法は，当該期の環瀬戸内に広く認められる特徴であり，松山平野では松山大学構内遺跡SB－7[8]や祝谷アイリ遺跡SK 15[9]，讃岐では下川津遺跡弥生土器溜り5[10]などがあげられる。これに対し高知平野の資料としては深淵遺跡のST 3出土の土器の中に認められるものの，永田遺跡SK 32や今次資料ほどに小型の底部に顕著な上げ底を持つ土器がまとまって出土する例はみられず，南四国中央部の中でも，山間地と平野部では，様相を異にしている。

銀杏ノ木遺跡は，弥生時代後期後葉から古墳時代初頭にかけての吉野川上流域における一連の遺跡増加の展開の中で捉えられる遺跡ではあるが，その中にあって，他の遺跡に先行して，後期中葉段階で出現するところに特徴がみられる。また，土器底部に現われる特徴から，後期中葉の段階において，当遺跡周辺の地域が高知平野とは違った社会環境にあって，独特の文化を形成していたことが想定されるのである。

註

（1）出原恵三『松ノ木遺跡Ⅱ』高知県長岡郡本山町教育委員会　1991年

前田光雄『松ノ木遺跡Ⅲ』高知県長岡郡本山町教育委員会　1993年
出原恵三・前田光雄『松ノ木遺跡Ⅳ』高知県長岡郡本山町教育委員会　1996年
（２）筒井敬二『田畠遺跡』高知県土佐郡土佐町教育委員会　1996年
筒井敬二『田畠遺跡Ⅱ』高知県土佐郡土佐町教育委員会　1997年
（３）出原恵三『永田遺跡』高知県長岡郡本山町教育委員会　1995年
（４）岡本健児他「嶺北高校校庭出土の遺物群」『長徳寺址発掘調査報告書』高知県長岡郡本山町教育委員会　1977年
（５）出原恵三『堀ノ尻遺跡』高知県長岡郡本山町教育委員会　1993年
（６）岡本健児他「玉屋敷・八反坪遺跡と出土物」『土佐町資料』高知県土佐郡土佐町教育委員会　1981年
（７）岡本健児『銀杏ノ木遺跡の発掘』高知県長岡郡本山町教育委員会　1984年
（８）梅木謙一他『松山大学構内遺跡－第２次調査－』松山大学　松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター　1991年
（９）梅木謙一他『祝谷アイリ遺跡』（財）松山市生涯学習振興財団　埋蔵文化財センター　1992年
(10) 大久保徹也「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ　下川津遺跡－第２分冊－』香川県教育委員会（財）香川県埋蔵文化財調査センター　本州四国連絡橋公団　1990年

おわりに

この銀杏ノ木遺跡発掘調査において，土佐町教育委員会生涯学習センターの筒井敬二氏に大変お世話になった。自分の仕事を犠牲にし，１年もの貴重な月日をこの調査に費やしてくれた。心より感謝申し上げたい。

この調査は雨期の時期も重なって予想以上に難渋した。大雨の後，全遺構内に水がたまり呆然と立ちつくしたことも。調査区に流れ込んだ泥水を何度も何度も，泥まみれになりながらかき出す作業員さんの姿がそこにはあった。猛暑・疲労・苛立ちの中，どんな時も輝いていた作業員さん達の笑顔を私達はいつまでも忘れない。

作業員全員の写真を掲載できなかったことを御了承下さい。

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
1	ST 1	甕	23.2 (3.0) — —	チャート，石英の細粒砂を含む。にぶい黄橙色。口唇面取り，内外ヨコナデ調整。	
2	〃	〃	12.1 (5.3) — —	結晶片岩の粗粒を多く含む。にぶい橙色。内外器表の荒れが激しい。	
3	〃	〃	17.2 (6.8) — —	長石，石英，チャートの細粗粒砂を含む。胴部外面ハケ，内面ナデ。内面に複合痕跡が見られる。	外面激しく煤ける。
4	〃	〃	17.5 (11.7) — —	チャート，長石，結晶片岩を含む。橙色。口縁内外ヨコナデで胴部外面ハケ，内面ナデ。	外面激しく煤ける。
5	〃	〃	14.2 (4.8) — —	石英，結晶片岩の粗粒砂を含む。内面はにぶい黄橙色で外面は橙色。口唇面取る。内外面ヨコナデ調整。	
6	〃	〃	13.8 (5.85) — —	チャートの粗粒，長石の細粒を含む。内面にぶい黄橙色，外面灰黄褐色。口唇面取り。口縁内外はヨコナデ調整。胴外面はタテハケ。	
7	〃	〃	13.5 (13.8) — —	チャート小礫，粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。口縁内外ヨコナデ，胴部外面タテハケ，内面ナデ。	外面激しく煤ける。
8	〃	〃	14.4 (6.0) — —	長石，チャートの細粗粒を含む。内面にぶい橙色。内外面ナデ。	外面煤ける。
9	〃	〃	12.0 (6.3) — —	チャート他の粗細粒砂を含む。内面橙色，外面にぶい黄橙色。内外面器表の荒れが激しい。	外面激しく煤ける。
10	〃	〃	13.2 (5.7) — —	チャート，長石の細粗粒砂を含む。にぶい橙色。内外器表の荒れが激しい。	外面煤ける。
11	〃	〃	13.1 (16.0) — —	結晶片岩，チャート粒を含む。内面にぶい黄褐色，外面にぶい黄橙色。口唇面取り。胴内面指ナデ。外面タテハケ＋ナデ。	外面激しく煤ける。
12	〃	〃	— (19.6) — 3.7	内面浅黄色で指ナデ，外面にぶい黄橙色でハケ＋ナデ。上げ底は縁部をつまみ出す。	外面被熱赤変で煤ける。
13	〃	〃	13.5 25.8 — 3.5	結晶片岩，長石他の細粗粒砂を含む。内外浅黄橙色。口縁内面はヨコハケ＋ナデ，外面はヨコナデ。胴外面タテハケ胴内面指ナデ。底部上げ底。	外面は激しく煤け，被熱赤変。器表剥離。
14	〃	壺	— (19.9) — 7.5	石英，長石，結晶片岩粒を含む。外面はハケ＋ヘラミガキ，内面ハケ。	器表の荒れが激しく調整掌位をつかめない。上げ底風。
15	〃	甕	13.2 (17.3) 22.2 —	雲母，石英，長石の細粗粒砂を含む。内外面にぶい黄橙色。外面ナデ調整。内面，指頭圧痕顕著。	外面胴下半激しく煤ける。
16	〃	〃	13.5 16.5 — 1.9	長石，石英の細粗粒砂を多く含む。口縁外面に粘土帯を貼付（または折り返す）。頸部内面，指頭圧痕。上胴部内面右下がりのハケ，下半はタテハケと指ナデ。底部が細い。外面ナデか。	底部は充填粘土が剥離している。
17	〃	〃	15.4 (7.5) — —	長石，結晶片岩粒を多く含む。内外にぶい黄橙色。内外面ナデ。	

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　考
18	ST 1	壺	— (7.7) — —	長石，チャート，石英の細粗粒砂を含む。内外面にぶい黄橙色。外面ナデ，胴部内面指頭によるナデ。	
19	〃	甕	— (11.9) — 3.3	チャート，長石の細粗粒砂を含む。内外面ハケ調整。胴内面中位に大きな黒斑。	外面激しく煤ける。上げ底風。
20	〃	〃	13.8 (14.55) — —	長石，石英，結晶片岩の細粗粒砂を多く含む。にぶい黄橙色。外面わずかにハケ調整痕を認める。内面指頭圧痕，粘土接合痕跡がある。	外面激しく煤ける。
21	〃	〃	— (10.0) — 3.7	チャート，石英，結晶片岩粒を含む。外面タテハケ＋ナデ。内面ナデ。上げ底風。縁部をつまみ出す。	外面煤ける。
22	〃	〃	— (11.5) — 4.1	石英，チャート，結晶片岩粒を含む。内面にぶい黄褐色，外面にぶい褐色。内面指頭によるナデ。	外面披熱赤変。内面オコゲが付着。
23	〃	〃	11.8 (12.85) — —	長石，チャート，結晶片岩粒を含む。内外面にぶい黄橙色。内外面器面調整不明。	外面煤ける。
24	〃	〃	— (8.45) — 4.6	石英粗面岩，結晶片岩粒を含む。器表の荒れが激しい。上げ底風。	
25	〃	壺底	— (5.7) — 9.8	石英，チャート，他の細粗粒砂を含む。	
26	〃	甕	— (15.5) — 3.2	石英，チャート，雲母を含む。外面タテハケ，内面ヨコナデ。上げ底で，縁部をつまみ出す。	
27	〃	〃	— (12.2) — 2.4	結晶片岩を多く含む。外面タテハケ。	外面煤ける。
28	〃	〃	12.0 (8.4) — —	長石，結晶片岩粒を含む。内面にぶい橙色，外面にぶい黄橙色。口唇面取りでわずかに上方につまむ。内外面ナデ。	
29	〃	〃	— (6.3) — 2.8	石英，チャート他の砂粒を含む。内外にぶい黄橙色。内・外ナデ調整。上げ底。	
30	〃	〃	— (4.1) — 5.0	チャート，長石他の砂粒を含む。内面黒褐色。外面にぶい黄橙色。内面ナデ，外面ハケ調整。少し上げ底。縁部を指頭でつまみ出す。	
31	〃	〃	— (5.3) — 2.8	長石，他の細粗粒砂を含む。内面にぶい黄褐色，外面灰黄褐色。外面タテハケ，内面ナデ。底部上げ底で指頭でつまみ出す。	
32	〃	〃	— (6.2) — 3.55	内面黄褐色。 長石，石英，他の粗細粒砂を含む。外面ナデか。底部はわずかに上げ底で縁部をつまみ出す。内面下→上のヘラケズリ＋指ナデ。	
33	〃	〃	— (6.5) — 3.15	チャート，石英，長石を含む。にぶい黄橙色。内面指頭圧痕顕著。外面ナデ。上げ底。	
34	〃	壺	16.0 (9.2) — —	長石，チャート，他の細粗粒砂を含む。内面橙色，外面にぶい橙色。口唇をわずかに上下に拡張。頸部外面タテ，内面ヨコ方向ハケ。胴部外面ナデか。	

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　考
35	ST 1	鉢	— (9.8) — 6.5	長石，石英，チャート他の細粗粒砂を含む。内外面ハケ＋ナデ（ハケは消えている。）底部はしっかりした台形状でなす。	
36	〃	〃	10.4 7.5 — 5.0	チャートの細粗粒砂を多く含む。内面橙色，外面浅黄色。内外ナデ。上げ底風。外縁を指頭でつまみ出す。	
37	〃	〃	9.0 (5.8) — —	石英，チャート，結晶片岩粒を含む。内面にぶい黄橙色，外面明黄褐色。内外面ナデ。	
38	〃	〃	10.2 6.4 — 3.9	チャートの粗粒砂，雲母を含む。内面は浅黄橙色，外面にぶい黄橙色。外面タテハケ，内面ナデ。高台状でしっかりした脚を有す。	
39	〃	〃	11.1 6.9 — —	石英，結晶片岩，長石の細粗粒砂を含む。底部わずかに上げ底，外縁を指頭でつまみ出す。内外面ナデ。	
40	〃	高坏	5.0 15.0 (7.1) —	石英，長石の細粗粒を多く含む。内面灰黄色，外面橙色。内外面ナデ。	
41	〃	〃	14.7 (12.3) — —	結晶片岩，長石の細粗粒砂を多く含む。内面橙色，外・断面にぶい橙色。内外面器表の荒れが激しい。	
42	〃	〃	— (9.0) — —	長石，チャート他の砂粒を含む。内外面にぶい橙色。内外面ナデ調整。	
43	〃	〃	— (8.7) — 12.2	チャートの粗粒砂を少量含む。内面橙色。外面ハケ。裾部内面ハケ，柱状部内面ナデ。	
44	〃	石包丁	全長 9.0 全幅 5.4 全厚 0.7 全重 29.0 g	結晶片岩。上・下に刃部。上下共に湾曲。側縁に弱い抉り。	
45	〃	〃	全長 8.0 全幅 4.0 全厚 0.8 全重 42 g	結晶片岩。 両側に弱い抉り。 上・下に刃部。下がしっかりしており，コーングロスが認められる。	
46	〃	〃	全長 8.5 全幅 4.3 全厚 1.2 全重 45 g	結晶片岩。 上・下に刃部。わずかに内湾。 側縁に弱い抉り。	
47	〃	〃	全長 7.3 全幅 4.0 全厚 0.55 全重 25 g	結晶片岩。 上・下に刃部。 側縁に３角の抉り。	
48	〃	〃	全長 8.0 全幅 4.0 全厚 0.9 全重 37 g	結晶片岩。 上・下に刃部。 抉りなし。	
49	〃	〃	全長 5.53 全幅 5.12 全厚 0.56 全重 24.4 g	結晶片岩。上・下に刃部。	
50	〃	石錘	全長 12 全幅 4.2 全厚 1.5 全重 133.3	みかぶ緑色岩。 打ち欠き石錘。	
51	ST 2	甕	13.6 (14.0) — —	チャート，風化礫他を含む。内面浅黄色。外・断面にぶい黄橙色。外面叩き，内面ハケ＋ナデ。	外面激しく煤ける。

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
52	ST 2	甕	— (8.5) — 3.8	結晶片岩他の細粗粒砂を含む。内外面黄橙色。断面灰色。外面叩き，内面ナデ。	
53	〃	鉢	— (8.9) 9.7 —	結晶片岩，チャートの粗粒砂を含む。内面黄橙色。外面灰白色。外面叩き，内面ナデ調整。	
54	ST 3	壺	— (4.45) — 5.0	結晶片岩，チャート他の粗細粒砂を含む。外面タテハケ＋ナデ。内面に爪圧痕あり。	
55	〃	〃	— (3.6) — 4.6	長石，チャート他の粗粒砂を含む。上げ底風。外面タテハケ，内面ナデ。	
56	〃	甕	— (6.3) — 3.8	結晶片岩粗粒を多く含む。内面灰黄褐色，外面にぶい黄橙色。内外ナデ。わずかに上げ底。	外面煤ける。
57	〃	〃	— (4.4) — 3.0	チャート他の粗粒砂を少量含む。外面タテハケ，内面指ナデ。	外面少し煤ける。
58	〃	石包丁	全長　6.8 全幅　10.2 全厚　0.9 全重　108.1 g	結晶片岩。長側縁の両方に刃部。両面から剥離。	
59	SK 2	土錘	0.5 — — —	細粒砂を含む。 全長3.75cm，全幅1.5cm。	
60	〃	甕	12.85 (12.5) — —	結晶片岩，チャート，長石の細粗粒砂含む。内外面にぶい黄褐色。口唇面取り，口縁内外ヨコナデ。胴部内面に指ナデ。外面タテハケ。	外面激しく煤ける。
61	SK 4	〃	12.5 (16.0) — —	結晶片岩，長石，チャートの小礫，粗粒砂を含む。内外面にぶい黄橙色。口唇面取り。口縁内外ヨコナデ。胴外面タテハケ。内面上半タテハケ，下半ナデ。	外面激しく煤ける。
62	〃	〃	— (8.4) — 4.0	長石，結晶片岩を多く含む。内外面にぶい橙色。外面タテハケ，内面ナデ。上げ底。	
63	〃	〃	— (12.0) — (4.0)	石英，長石，結晶片岩粒を含む。外面ハケ＋ナデ。内面指ナデ。	外面煤ける。
64	〃	高坏	— (7.0) — 14.2	結晶片岩を多く含む。内外面にぶい黄橙色。端部面取り内外ナデ調整。	
65	SK 5	甕	14.0 (4.0) — —	チャート粗粒，長石細粒を含む。内・断面橙色。外面にぶい橙色。口縁内外ヨコナデ。	外面煤ける。
66	〃	〃	— (2.7) — 5.0	チャート，結晶片岩，長石粒を含む。	
67	SK 7	〃	— (4.8) — 5.2	結晶片岩他の粗粒を多く含む。内外断面すべて灰色。上げ底。内・外ナデ。	
68	〃	〃	— (7.2) — 3.2	結晶片岩他の砂粒を多く含む。内面灰色，外面にぶい黄橙色。内外面ナデ。底部外縁つまみ出し。	

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量(cm) 口径 器高 胴径 底径	特徴	備考
69	SK 7	壺	17.1 (4.7) — —	チャート，結晶片岩他の細粗粒砂を含む。内面灰白色，外面にぶい黄橙色，断面暗緑灰色。口縁端をつまんで強くヨコ方向のナデ。	
70	〃	甕	13.3 (9.6) — —	結晶片岩，長石，他の小礫粗粒砂を含む。内面にぶい黄橙色。外面橙色。口唇面取り。内面指ナデ。外面調整不明。	
71	〃	〃	— (7.6) — 4.7	石英，チャート，結晶片岩を含む。外面タテハケ＋ナデ。内面ナデ。	
72	〃	〃	9.7 (9.5) — —	長石，結晶片岩の粗粒砂を含む。内外面ナデ。	
73	〃	壺	— — — —	チャート，結晶片岩，長石の粗粒を多く含む。口唇面取り，わずかに下方につまみ出す。外面ハケ，内面ナデ調整。	
74	〃	甕	— (9.1) — 3.2	結晶片岩他の粗粒砂を含む。外面ハケ調整，内面指ナデ。	外面煤ける。
75	〃	〃	11.0 19.2 — 3.3	結晶片岩他の細粗粒砂を含む。外面タテハケ，内面指頭のナデが顕著。上げ底（充填粘土が剥離したものか）	
76	〃	壺	— (8.6) — 9.7	石英，結晶片岩，細粗粒砂を含む。内面灰色，外面黄橙色，断面灰色。外面木目の粗いハケ。内面ナデ。	
77	〃	高坏底	— (1.1) — —	石英，角閃石他を含む。内外面橙色。讃岐からの搬入品の可能性あり。高坏・坏底か。内面丁寧なヘラミガキ。外面に脚接合時の沈線が施される。	
78	SK 17	壺	16.6 (2.1) — —	結晶片岩，チャート他の粗細粒砂を多く含む。内・断面灰色。外面にぶい黄橙色。口縁端を上方につまみ上げ強いヨコナデ，口縁内外ヨコナデ。	
79	〃	鉢	15.1 (10.2) — 5.6	チャート，結晶片岩の粗細粒砂を含む。外面タテハケ，内面ナデ。	外面被熱赤変。
80	SK 24	壺	13.8 (3.5) — —	長石，石英，結晶片岩粒を含む。内外断面橙色。内外面ナデ。	
81	〃	〃	— — — —	チャート，結晶片岩，石英の粗粒砂を多く含む。内外面にぶい黄橙色。内・外ナデ調整。	
82	〃	甕	— (5.8) — 4.9	結晶片岩の粗粒を多く含む。内外面にぶい黄橙色。やや上げ底。内外面ナデ。	外面煤ける。
83	P 56	〃	23.8 (4.7) — —	石英，結晶片岩粒を多く含む。内外面にぶい橙色。口縁内外ヨコナデ。胴部内外調整不明。	
84	包含層 (Ⅸ層)	〃	14.0 (14.2) 22.0 —	結晶片岩，石英，長石の粗細粒を多く含む。内面にぶい黄橙色。外面にぶい褐色。断面暗灰黄色。内外面，器表の荒れが激しい。	
85	〃	〃	12.0 (7.6) — —	石英，長石の細粗粒砂を含む。内外面にぶい橙色。内外面器表の荒れがひどい。	外面煤ける。

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
86	包含層 （Ⅸ層）	甕	— (6.5) — 3.2	結晶片岩，長石，石英他の細粗粒砂を多く含む。内外面橙色。底部わずかに上げ底。外底付近に叩き。内面ハケ，外面叩き＋ナデ。	外面煤ける。
87	〃	〃	15.9 12.3 — —	チャート他の細粗粒砂を含む。内外面黄褐色。口唇面取り。外面叩き＋ナデ。内面ナデ。	外面煤ける。
88	〃	〃	11.4 (8.4) 16.8 —	チャート，石英，長石の細粗粒砂を含む。内外面にぶい黄橙色。胴部内外面ハケ，口唇面取り。	外面煤ける。
89	〃	〃	— (5.8) — 2.5	結晶片岩の小礫，細粒砂を多く含む。内外面灰オリーブ色。わずかに上げ底の小さな底部。内外面器表の荒れが激しい。	胎土は0.5～4.5㎜の砂粒。
90	〃	〃	10.7 (5.7) — —	結晶片岩，長石他の粗細粒砂を含む。内外にぶい灰褐色。外面ナデ，胴内面指ナデ。口唇は丸くおさめる。	外面煤ける。
91	〃	甕底	— (17.0) — 3.8	結晶片岩他の細粒を多く含む。内外面，浅黄橙色。外面タテハケ，内面ナデ。	
92	SK 13	中世 鍋	— (4.9) — —	石英粗粒，雲母を多く含む。外面ヨコナデ，胴内面ヨコハケ。	外面煤ける。
93	SK 21	中世 土師 鍋	38.0 (6.0) — —	石英，長石の細粗粒を多く含む。内外ナデ。	
94	〃	土師鍋 （15C）	22.0 (4.4) — —	石英，長石の粗細粒砂を多く含む。口唇を丸くおさめ，断面カマボコ状のツバを持つ。内外ナデ。	
95	SK 10	土師 埦	— (1.0) — 6.7	精選された胎土。逆台形状のしっかりした貼付高台を有す。	
96	SK 21	青磁 碗	— (2.8) — 7.0	白色やや粗い胎土。緑褐色の釉が厚くかかる。全面施釉し，外底の釉を蛇ノ目状に削り取る。露胎部褐色。内底印花文。	
97	P 11	土師 坏	— (1.0) — 4.0	精選された胎土。内面にロクロ目顕著。外底糸切り。	
98	P 52	〃	— (3.3) — 4.9	精選された胎土。内外面ロクロ目顕著。糸切り。	
99	P 38	土鍋	47.0 (11.1) — —	石英，長石，細粗粒を多く含む。内外面ハケ調整を基調とする。	内面の底部，外面煤ける。
100	包含層 （Ⅸ層）	甕	14.6 (8.1) — —	石英，結晶片岩他の細粗粒砂を含む。内・外ナデか。	
101	〃	〃	— (7.4) — 1.6	長石，結晶片岩の細粗粒砂を多く含む。小さな平底，内外ナデ。	0.5～4.0㎜の砂粒。
102	〃	〃	— (6.0) — —	結晶片岩の小礫，他の粗細粒砂を含む。外面タテハケ。	外面煤ける。

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
103	包含層 （Ⅸ層）	甕	12.6 (6.0) — —	石英，長石の粗粒砂を含む。口縁部内外面ヨコナデ，胴内外面ナデ。	外面煤ける。
104	〃	〃	— (12.7) — 3.7	チャート，他の粗細粒砂を含む。外面ハケ，内面ナデ。	外面煤ける。
105	〃	〃	— (5.4) — 2.2	石英，長石の粗細粒砂を含む。上底外面タテハケ，内面ナデ。	0.5～4.0mm の砂粒。
106	〃	壺	14.2 26.6 — 4.0	チャートの粗粒砂を多く含む。口唇，強いヨコナデ。外面叩き＋タテハケ。内面ナデ。	
107	〃	甕	— (6.8) — 1.8	結晶片岩その他の小礫，粗細粒砂を多く含む。外底タテハケ，内面ナデ。細い底部。	0.5～5.0mm の砂粒。
108	〃	壺底	— (6.2) — —	結晶片岩を多く含む。外面タテハケ。内面ナデ。	0.5～5.0mm の砂粒。
109	〃	〃	— (7.8) — 4.6	結晶片岩，石英粒を多く含む。底部，上げ底。外面タテハケ。内面ナデ。	0.5～4.0mm の砂粒。
110	〃	鉢	14.5 9.5 — 5.6	結晶片岩，赤色風化礫の砂粒を多く含む。台形状の底部。底部脇を指頭でつまむ。内・外器表の荒れが激しい。	
111	〃	〃	11.4 6.6 — 4.9	石英，赤色風化礫を多く含む。 台形状に張り出した底部，指頭圧痕顕著。内・外面ナデか。	0.5～5.0mm の砂粒。
112	〃	壺	— (3.8) — 4.6	結晶片岩，他の小礫，細粗粒砂を多く含む。	
113	〃	鉢	— (2.9) — 1.9	結晶片岩，他の細粗粒砂を含む。外に出張った上げ底状の底部。	0.5～2.0mm の砂粒。
114	〃	壺底	— (2.5) — 4.8	結晶片岩，石英他の細粗粒砂を含む。外面ハケ，内面ナデ。	
115	〃	甕	— (4.2) — 5.2	結晶片岩，石英他の細粗粒砂を多く含む。外面ハケ，内面ナデ。わずかに上げ底。	外面煤ける。
116	〃	高坏	— (7.0) — —	チャート，赤色風化礫の細粗粒砂を含む。内，外器表の荒れが激しい。	
117	包含層 （Ⅷ層）	甕	11.2 (3.9) — —	長石，結晶片岩の細粗粒砂を多く含む。口唇を上方につまみ上げて横ナデ。	
118	包含層 （Ⅶ層）	土鍋	17.0 (8.0) — —	長石，石英の粗粒砂を含む。口唇丸で口縁下に断面。カマボコ状のツバ。内・外ナデ調整。	外面激しく煤ける。
119	〃	高坏	— (4.3) — —	長石，石英他の細粗粒砂を多く含む。内・外面ナデ調整。	

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
120	包含層（Ⅶ層）	鉢	— (4.4) — 4.5	結晶片岩，石英，他の細粗粒砂を多く含む。底部は外に張り出す。内・外面ナデ調整か。	胎土は0.5～5.0㎜の砂粒。
121	〃	土鍋	44.6 (10.3) — —	石英・長石の粗粒砂を含む。内・外面ハケ調整。口縁部内・外強いヨコナデ。	外面煤ける。
122	包含層（Ⅵ層）	甕	15.2 (12.5) — —	チャート，赤色風化礫の細粗粒砂を含む。口唇部強いヨコナデ。胴外面叩きとタテハケ。内面ハケ。	
123	〃	青磁碗	— — — —	灰色で，やや粗い胎土。全体ややにごりのある薄緑色。外面丸ノミ状の工具による蓮弁。	
124	〃	甕	14.5 (5.0) — —	石英，他の粗粒砂を含む。調整不明。	
125	〃	壷	— (4.6) — 5.0	チャート，結晶片岩他の細粗粒砂を含む。内外ナデ。やや上げ底。	
126	〃	青磁碗 龍泉窯	— (1.9) — 6.0	灰色精緻の胎土。透明度のある褐色の胎土。全面施釉，外底に目跡が付着。内底に花文。	
127	〃	青磁碗	17.0 (4.9) — —	灰白色，やや粗い胎土。にごりのある薄緑の釉。口縁内面に２糸の沈線。外面コテによる削りの単位明瞭。	
128	〃	鉄鏃	— — — —	全長5.1㎝，全振2.3㎝，全厚1.0㎝ 重量10.1ｇ	
129	〃	〃	— — — —	全長8.5㎝，全振2.0㎝，全厚0.6㎝ 重量13.3ｇ	
130	〃	土錘	— — — —	全長4.5㎝，全幅1.6㎝，全厚0.5㎝ 重量8.6ｇ，孔径0.6㎝ 精選された胎土。	
131	包含層（Ⅴ層）	染付	13.6 (4.2) — —	明染付模様。やや褐色気味の粗い胎土。16世紀頃の所産。内面１条の堺線。外面形骸化した波濤文と芭蕉文。	
132	〃	青磁碗	14.0 3.7 — —	灰色精緻の胎土。濁りのある緑色釉が厚くかかる。	
133	包含層（Ⅳ層）	〃	14.4 (5.2) — —	胎土は灰色でやや粗いつくり。薄緑色の釉。外面は鎬蓮弁文。	
134	〃	甕	— (4.1) — 4.2	チャート他の細粗粒砂を多く含む。外面叩き，内面ナデ。	
135	〃	中世鍋	21.0 (7.4) — —	長石，石英，他の粗細粒砂を含む。口唇丸い。口縁下に扁平なツバ。内外面ナデ。	ツバ下外面激しく煤ける。
136	〃	石鏃	全長　3.7㎝ 全幅　2.4㎝ 全厚　0.4㎝ 全重　3.7ｇ	チャート。先端，基部はやや非対象。	

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
137	包含層 （Ⅲ層）	甕	15.9 (5.0) — —	石英，長石，チャートの細粗粒砂を多く含む。口唇面取り。 内・外面器表の荒れが激しく調整不明。	
138	〃	鉢	— (4.9) — 5.6	石英他の細粗粒砂を含む。断面台形状の底部。内・外面ナデ調整。	0.5～7.0㎜大の砂粒。
139	〃	高坏脚	— (6.3) — —	長石，チャート他の細粗粒砂を含む。	
140	〃	青磁碗	15.8 (3.2) — —	灰色やや粗い胎土。透明度の高い釉。貫入りあり。	
141	〃	坏	12.8 4.9 — 5.4	精選された胎土。内・外面ロクロ目顕著。	
142	〃	脚付鉢	— (3.6) — —	長石，チャートの粗粒砂を多く含む。	
143	〃	古代 甕	22.0 2.0 — —	石英，長石他の細粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面器表の荒れが激しい。	0.5～4.0㎜の砂粒。
144	〃	白磁皿	11.0 (1.6) — —	口ハゲ。白色でやや粗い胎土。	
145	〃	甕	— (7.9) — 3.8	石英の小礫，粗粒砂を多く含む。 内・外面ナデ調整。 外面器表の荒れが激しい。	
146	〃	青磁	— (2.8) — 4.8	褐色のやや粗い胎土。全面施釉。灰オリーブ色。外底蛇ノ目に袖かき。	
147	〃	青磁碗	12.6 (3.4) — —	白色で精緻な胎土。ややにごりのある薄緑色の釉。	
148	〃	皿	— (3.2) — 7.0	白色やや粗い胎土。緑濁の釉が厚くかかる。	
149	〃	土師皿	— (2.4) — 7.3	精選された胎土。にぶい黄橙色。内・外ナデ。	
150	〃	土鍋	— — — —	長石，石英の細粗粒砂を含む。口縁下に下錘気味のツバ。内外ナデ。	外面煤ける。
151	〃	白磁 小皿	— (2.3) — 4.2	白色やや粗い胎土。内底中央部が膨らむ。外面中位あたりまで施釉。	
152	〃	青磁碗	— (2.85) — 5.2	灰色のやや粗い胎土。透明度のある灰色釉。外底，高台内面は露胎。 兜巾あり。	
153	包含層	青磁皿	— (1.4) — 4.4	灰色のやや粗い胎土。透明度のある緑色釉。高台内面まで施釉。	

遺物観察表

挿図番号	出土地点	器種	法量（cm） 口径 器高 胴径 底径	特　　徴	備　　考
154	包含層	甕		長石，石英を含む。内外面ナデ調整。胴部内面上位横位擦痕＋ナデ。口唇上下，段部，胴部削り出し突帯上刻み。突帯を強調するように上下に細い沈線。	上胴部７と８本の山形文
155	〃	〃	14.4 — — —	チャート，結晶片岩，長石を含む。口縁内外ヨコナデ。上胴部外面ヨコハケ。内面指頭圧痕あり。	
156	〃	〃	14.75 (13.2) — —	チャート，結晶片岩の粗粒砂を多く含む。口唇面取り。胴外面タテハケ。内面上胴部付近まで下→上のヘラ削りとナデ調整。	外面煤ける。
157	〃	〃	13.0 (7.2) — —	結晶片岩の粗粒を多く含む。口唇面取り。口縁内外面ハケ。胴部外面ハケ。内面に指圧痕顕著。	外面激しく煤ける。
158	〃	〃	15.0 (7.2) — —	結晶片岩，チャートの粗細粒砂を多く含む。口唇面取り。口縁内面ヨコハケ，外面ヨコナデ。胴外面タテハケ。内面は指ナデ。	
159	〃	鉢	24.0 (3.9) — —	長石の細粒砂を含む。全体灰色。東播系のコネ鉢。	
160	〃	白磁皿	14.1 (2.1) — —	灰色精緻な胎土。口縁外反。	
161	〃	鉢	— (6.0) — 4.2	結晶片岩，他の粗粒砂を含む。器表の荒れがひどい。	
162	〃	土師坏	12.4 (3.0) —	精選された胎土。ロクロ成形。	内面煤ける。灯明用。
163	〃	〃	9.8 5.4 — 4.8	精選された胎土，黄褐色でロクロ成形。糸切り。	
164	〃	鉢	— (2.8) — 6.6	結晶片岩，他の粗細粒砂を含む。 断面台形の底部。外面指頭圧痕あり。	
165	〃	土師器坏	— (1.6) — 3.6	精選された胎土。糸切り痕あり。ロクロ成形。	
166	〃	青磁碗	— (3.85) — 4.8	全体灰色で精緻な胎土。緑濁の釉が厚くかかる。高台内面までかかり外底は蛇ノ目に削り取る。高台内面に目痕が不着。細蓮弁模様。	
167	〃	青磁皿	— (1.6) 8.6 —	灰色堅緻な胎土。内面鉄釉，外面露胎。台形状の削り出し高台。	外面煤ける。
168	〃	青磁碗	13.4 (4.0) — —	灰白色のやや粗い胎土。細蓮弁あり。 薄緑色の細・貫入あり。	
169	〃	〃	14.6 (4.3) — —	白色やや粗い胎土。内面には細蓮弁。 薄緑色の細・貫入。	
170	〃	石包丁	全長　4.75 全幅　8.7 全厚　0.7 全重　40.8 g	結晶片岩製。片方の短片に弱い抉りあり。 両面から刃部をつくり出し，やや外湾気味。	

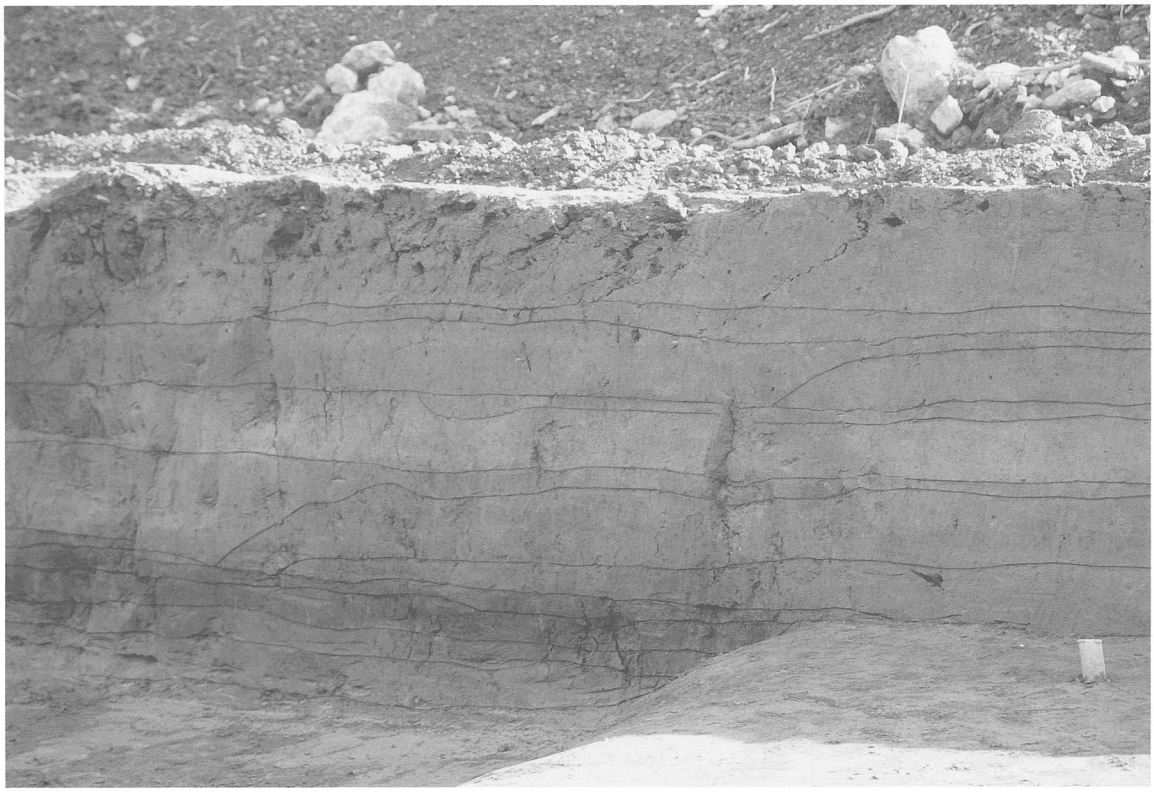
写　真　図　版

調査前風景

試掘調査トレンチ設定状況

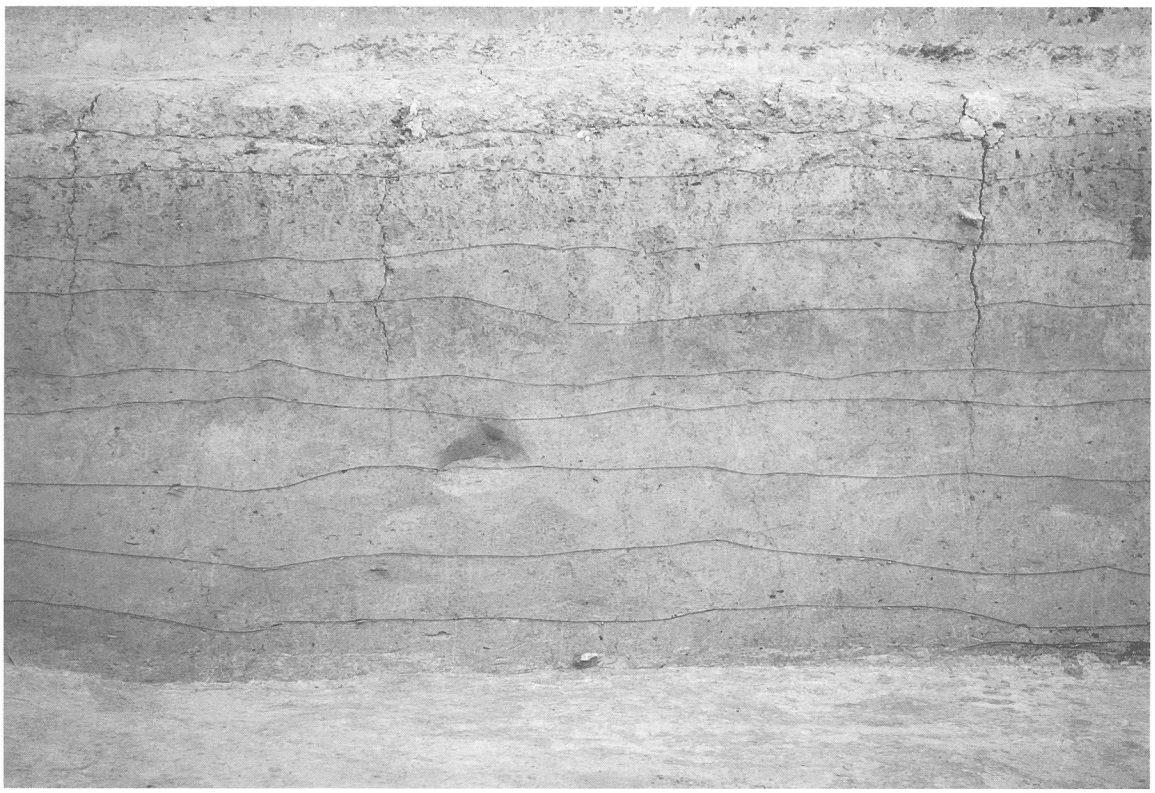
PL 2

調査区南壁Ａ－Ｂセクション



同上

調査区東壁Ｃ－Ｄセクション

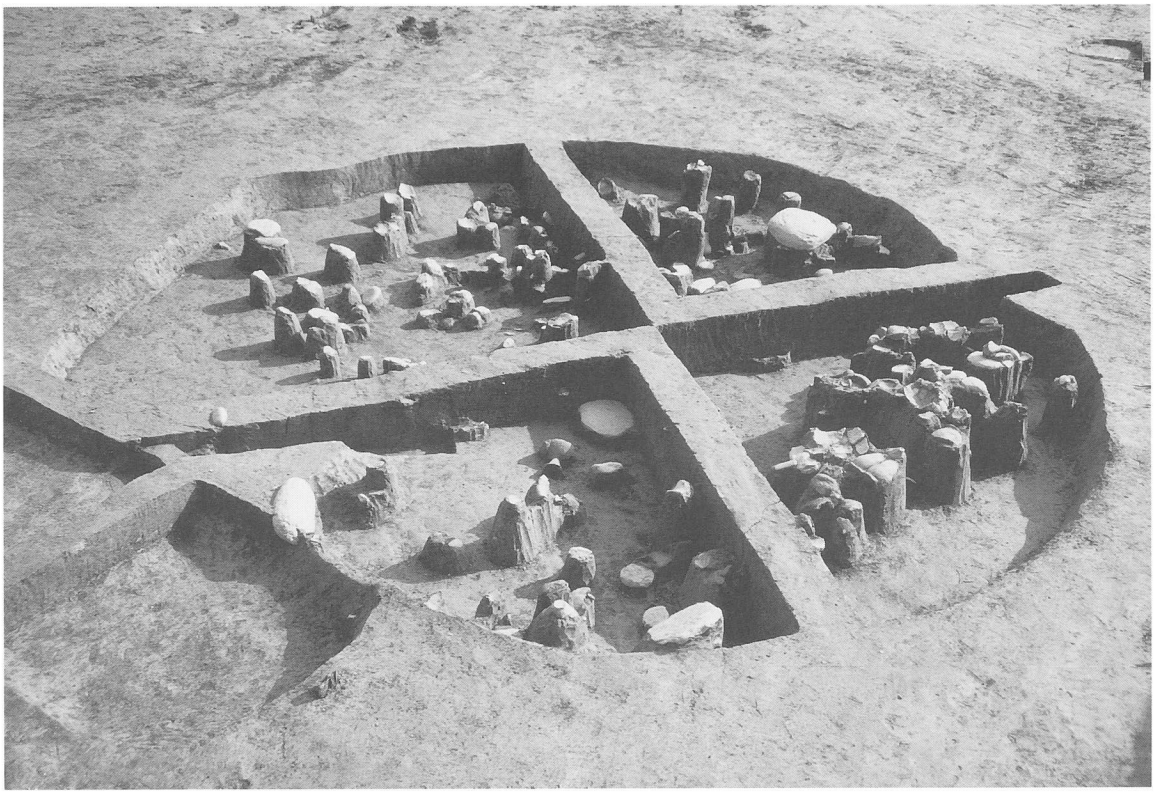


同上

PL 4

ST 1検出状況（西から）

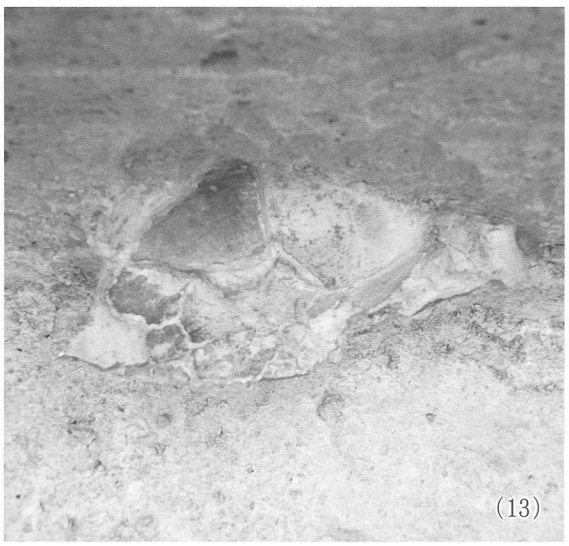
ST 1発掘作業風景



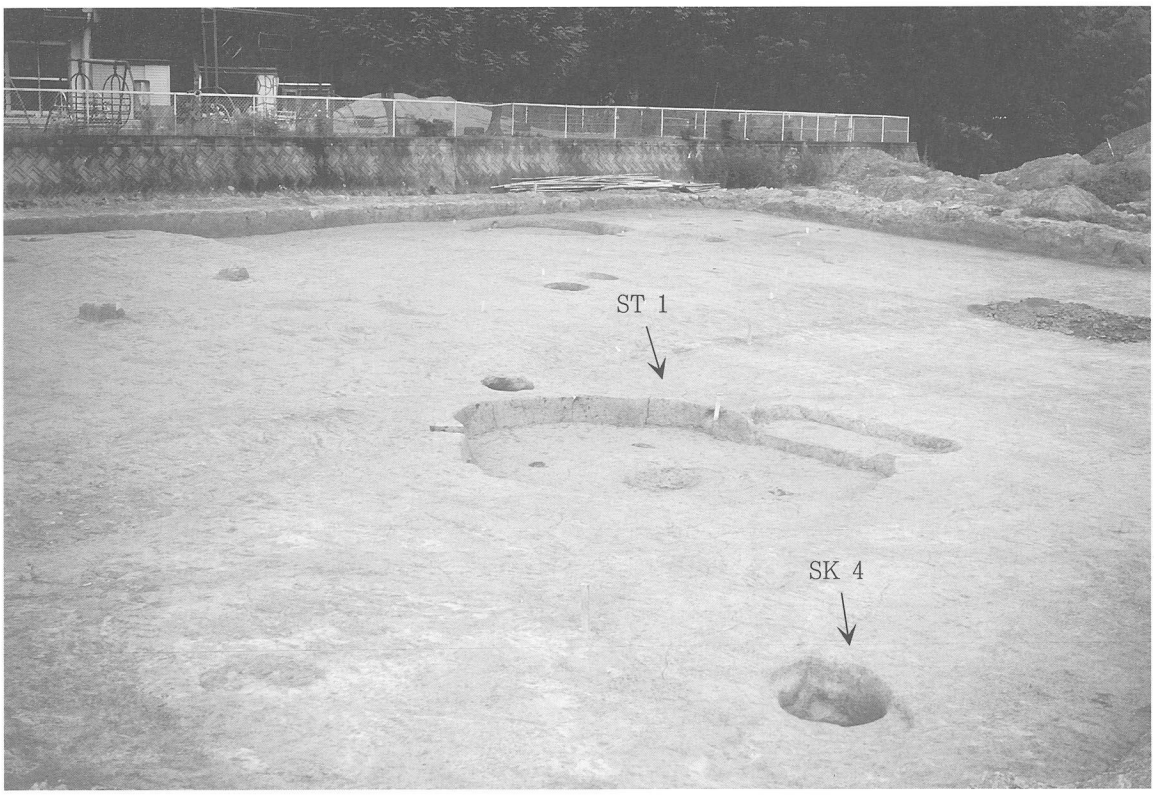
ST 1遺物出土状況（北から）

ST 1完掘状況（南から）

PL 6



ST 1遺物出土状況



ST 1とSK 4の位置関係

SK 4遺物出土状況

PL 8

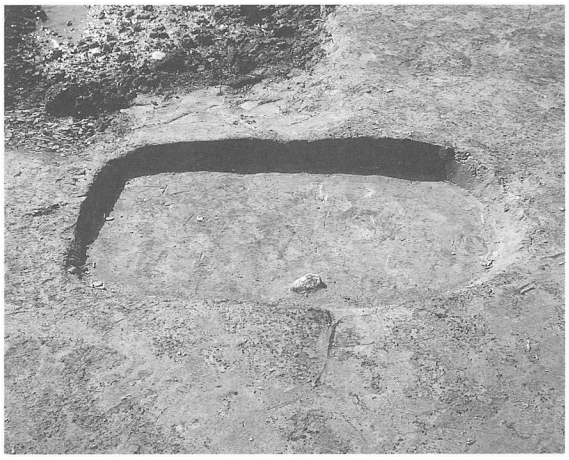
ST 2セクション（西から）

ST 2完掘状況（南西から）

ST 3完掘状況（南西から）

同上（北東から）

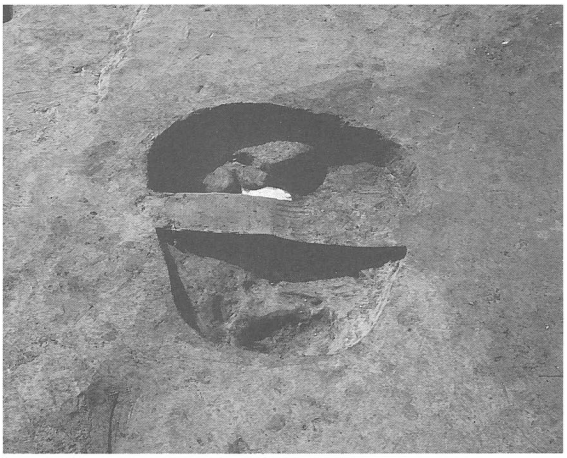
PL 10



SK 1完掘状況

SK 3完掘状況

SK 5完掘状況



SK 6

SK 7遺物出土状況

SK 13セクション

SK 15完掘状況

SK 16完掘状況

SK 18完掘状況

SK 20完掘状況

SK 22完掘状況

SK 24完掘状況

PL 12

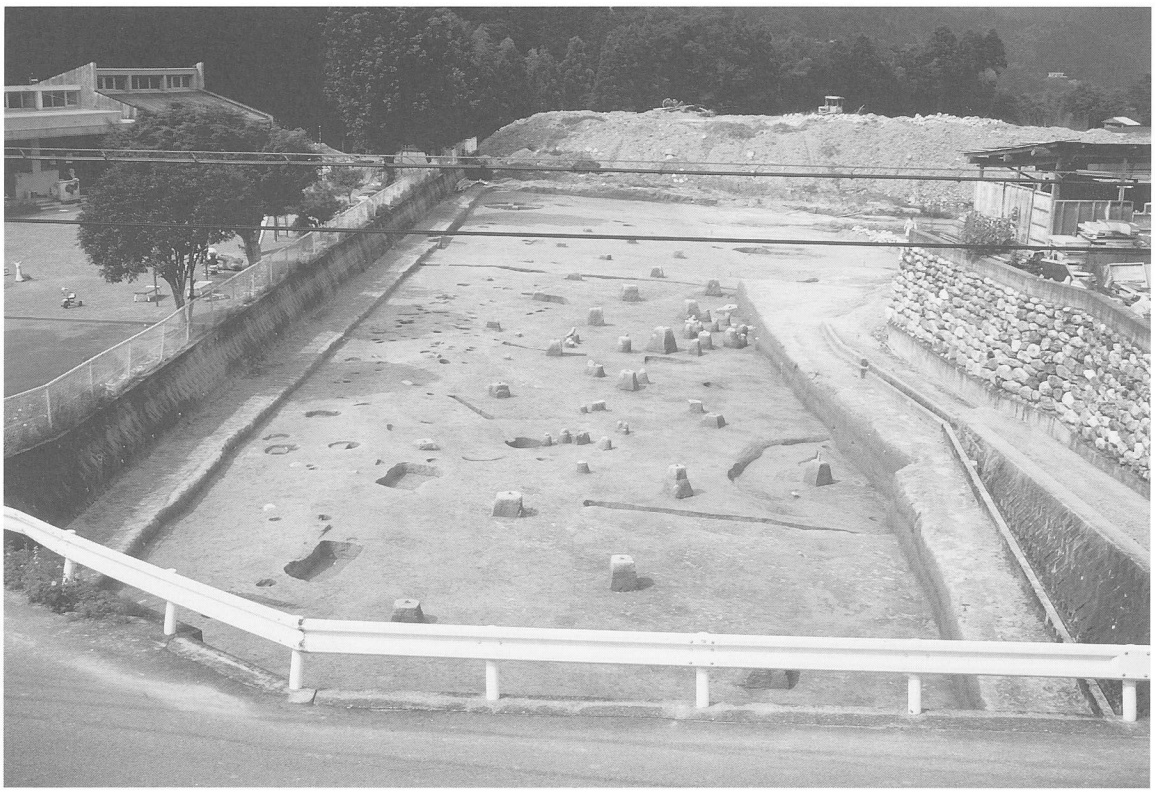
包含層Ⅸ層上面集中出土遺物出土状況

同上（84）

同上（90）

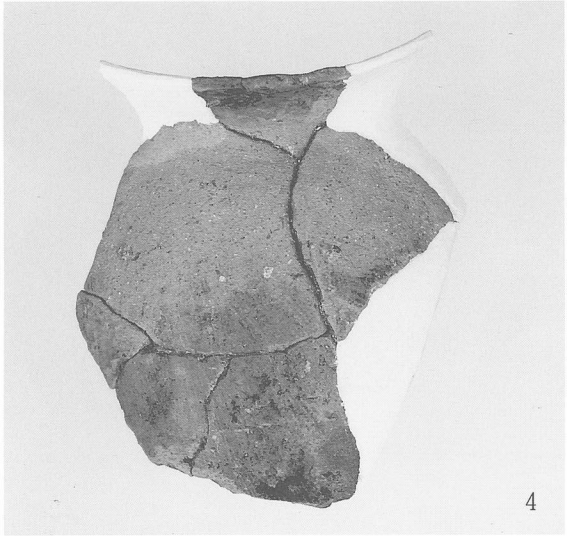
同上（86）（88）

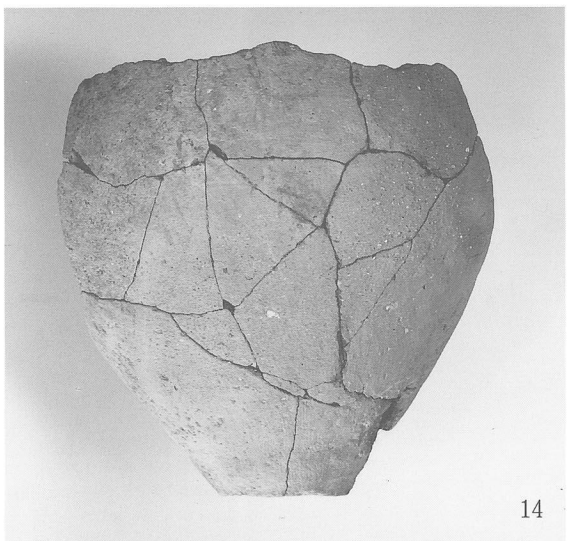
調査区全景（北東から）

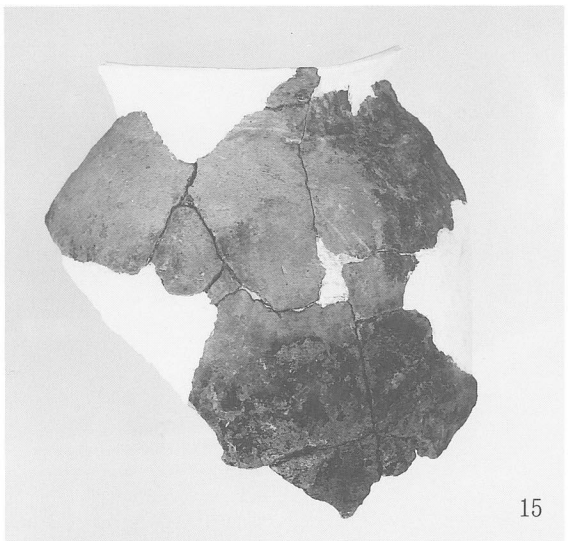


同上（南西から）

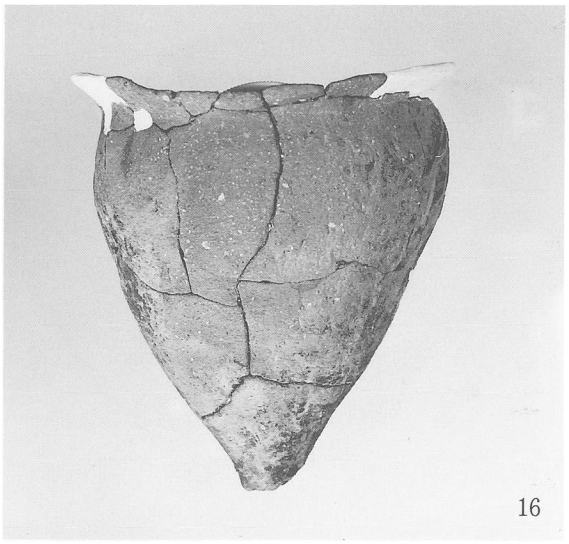
PL 14

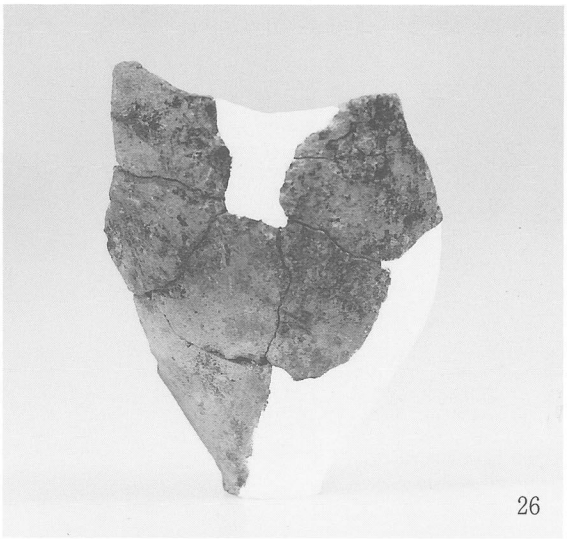






ST 1（4・7・11・13・14・15）出土の遺物

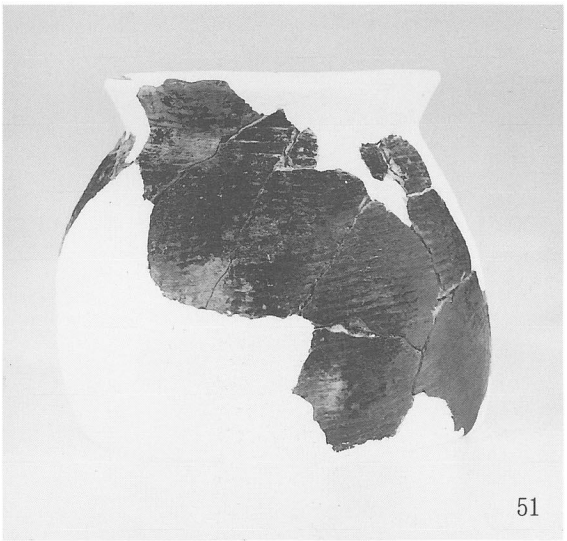




ST 1（16・19・20・26・27・34）出土の遺物

PL 16

ST 1（35・36・39・40・41・43）出土の遺物



ST 2 (51・52)・SK 2 (60)・SK 4 (61・64)・SK 7 (75) 出土の遺物